目　次

１　研究主題に関する社会・地理歴史・公民科の基本的な考え方 ---------- 1

２　授業研究 ---------- 2

【授業研究１】　小学校第６学年「世界に歩み出した日本」における習得した知識を活用する学習指導の工夫 ---------- 2

【授業研究２】　中学校第１学年歴史的分野「東アジア世界とのかかわりと社会の変動」における習得した知識を活用する学習指導の工夫 ---------- 7

【授業研究３】　高等学校第２学年日本史Ａ「歴史と生活　－生活文化の変化－」における習得した知識を活用する学習指導の工夫 ---------- 7

【授業研究４】　高等学校第１学年現代社会「現代に生きる私たちの課題」における習得した知識を活用する学習指導の工夫 ---------- 17

【授業研究５】　小学校第６学年「３人の武将と全国統一」における習得した知識・技能を活用する学習指導の工夫 ---------- 22

【授業研究６】　中学校第３学年公民的分野「人権と共生社会」における習得した知識を活用する学習指導の工夫 ---------- 27

【授業研究７】　高等学校第３学年地理Ａ「人間活動を知る身近な情報」における習得した知識・技能を活用する学習指導の工夫 ---------- 32

【授業研究８】　高等学校第３学年現代社会「現代の社会生活と青年」における習得した知識を活用する学習指導の工夫 ---------- 37

３　研究のまとめ ---------- 42

1　研究主題に関する社会・地理歴史・公民科の基本的な考え方

(1) 社会・地理歴史・公民科における豊かな学びについて

平成17，18年度の教科に関する研究においては，「調べて考え，表現する社会・地理歴史・公民科学習指導の在り方」を研究主題として，学びの意義を実感しながら「確かな学力」を身に付けていくことを「豊かな学び」ととらえている。

(2) 社会・地理歴史・公民科における「児童生徒の豊かな学びをはぐくむための授業の創造」

社会・地理歴史・公民科（以下，社会科と称する）の学習指導では，児童生徒が自らの問題意識に基づいて調べ，そこから考えたことや理解したことを表出する学習活動の在り方について追究してきた。具体的には，様々な見学や体験などから調べたことについて実感を伴った理解を図り，話合いなどを通して，他に分かりやすく表現するという学習活動についての工夫である。この場合の実感を伴った理解とは，単に資料や教師の講義から得た知識ではなく，児童生徒が自分で体験したり，見学したりした結果得られるものであり，これを自由な方法で発表することの実践を行ったが，知識・技能を活用して表現するまでには至らなかった。そこで，本研究においては，平成17，18年度の研究に基づいて，調べて考えて習得した知識・技能を活用して，表現する授業の構築を図ることとした。

社会科の学習指導における活用とは，習得した知識・技能を用いて考えることであり，その意味を習得することで実社会・実生活で用いることができるようになることである。本実践における習得した知識・技能とは，調べ学習や教師の講義によって得られた資料や情報に対して児童生徒自身による思考が加わり練り上げられるものであり，学習活動と同時に進められる場合もあれば，繰り返し行われることも考えられる。そして，その活用は，理論上は実社会や実生活において適切に生かせることであるが，授業実践では，学習の場に応じて適切に用いることととらえた。

そこで，本研究においては，児童生徒が教師の講義や調べ学習などで収集した情報や資料に対して，話合いなどの活動を通して思考を深め，その場で習得した知識・技能を活用することで他者に分かりやすく表現し伝えることのできる授業を構築することが，「児童生徒の豊かな学びをはぐくむ授業の創造」につながると考える。

(3) 主題に迫る手立て

以上のような基本的な考え方をもとに社会科における「児童生徒の豊かな学びをはぐくむための授業の創造」につながる手立ての方向性を①児童生徒が，調べ学習を通して，基礎的・基本的な知識・技能を習得する学習活動，②習得した知識・技能を活用して他者に分かりやすく表現する学習活動とした。これらの方向性を基に，次のような手立てを構築し，小学校２校，中学校２校，高等学校４校で実践し，分析・考察した。

○調べ学習を通して得られた資料に対して，話合いなどを通して思考を深め，学習の基盤となる知識・技能の習得
○習得した知識・技能を適切に活用できる，学習場面に沿った表現方法の工夫

２　授業研究

【授業研究１】　　小学校第６学年「世界に歩み出した日本」における習得した知識を活用する学習指導の工夫

⑴ 研究のねらい

本単元は，日清・日ロの戦争や条約改正，科学の発展等と関連付けながら，我が国の国力が充実し，国際的地位が向上していったことを理解することをねらいとしている。そして，日清・日ロの二つの戦争や条約改正，科学の発展等を通して，当時の人物の願いや働きを考え，我が国の歴史に対する興味や関心を育てることができるとともに，先人の活躍が現在の自分たちの生活や国家・社会の発展の基盤になっていることをとらえることができる単元である。

授業に関する実態調査からは，32人の児童が資料を基に調べ学習ができると答えている。しかし，自分の考えをまとめたり表現したりする活動についてはできると答えた児童が少ない。児童は，自分の力で調べることはできるが，調べたことをまとめたり表現したりすることに苦手意識をもっていると考えられる。次に，「自分の考えをきちんと表現するためには，どんなことが必要か」を聞いたところ，十分に調べること」が31人，「調べたことがよく分かること」が33人であった。調べ学習を十分に行い，その内容が理解できたときに，自分の考えを表現できると考えていることが分かる。児童が納得できるような調べ学習を行い，調べた内容を理解し，知識を確実に習得できれば自分の考えをもつことができ，活用できる知識となり，児童はまとめたり表現したりすることができると考える。

表１　社会科の授業に関する実態調査
（平成19．７．13実施　第６学年１組37人）

質問１　自分が「できる」と考える活動は何ですか。（複数回答）（人）

	できる	どちらとも言えない	できない
学習問題を作る	23	10	4
見学や調査を行う	31	6	0
資料をもとに調べる	32	5	1
調べたことをまとめる	13	9	15
自分の考えを表現する	8	17	12
友達と話し合う	24	9	4
先生の話を聞く	27	5	2

質問２　自分の考えをきちんと表現するためには，どんなことが必要ですか。（複数回答）（人）

課題がよく分かること。	17
先生が助言してくれること。	21
十分に調べること。	31
資料を的確に読み取ること。	22
調べたことがよく分かること。	33
友達と話し合って考えをまとめること。	18
まとめる時間が多いこと。	23
表現の仕方が分かること。	32

そこで，本単元では，まず，単元を通しての学習問題を設定し，目的をもって調べ学習を行う。調べ学習では，資料を収集して調べた後，当時の人々になりきって，その業績や心情を短い文で吹き出しや会話文に書き出し，調べた内容を再構成できるようにする。そして，人物の行動の意図や願いについて自分の考えをもたせ，習得した知識とさせる。次に，自分の考えを表現する方法として，パネルディスカッションを取り入れ，当時の人物になりきって話し合う。習得した知識を活用して，他の児童の意見を聞き，人物の願いや心情を考え，表現できるようにする。さらに，当時の人物の業績や心情等をもとに，調べた人物の中から一人を選んで手紙を書く。習得した知識・技能を活用し，様々な人物の活躍が現在の自分たちの生活や国家・社会の発展の基盤になっていることを考えさせる。これらの活動を通して，本単元のねらいに迫るとともに，習得した知識を活用し，自分の考えを表現できるようにしたい。

⑵ ねらいに迫るための具体的な手立て

ア　知識を習得するための学習活動

調べ学習では，資料を効果的に収集し，調べたことを見直し，短い文で再構成できるようにする。その際，歴史的事象の背景や経過，結果等の事実をとらえるだけでなく，当時の人物の業績や心情を吹き出しや会話文を用いてまとめ，人物の行動の意図や願いを考

えさせる。そして，その歴史的事象に対する自分なりの考えをもたせる。

イ　習得した知識を活用する表現活動

(ｱ)　パネルディスカッションによる表現活動の工夫

自分の考えを表現する方法として，パネルディスカッションを取り入れ，当時の人々になりきって話し合う。なりきって話し合うことで，当時の人物が何を考え，考えたことをどのように行動に結び付けたか，その願いや心情を理解させる。そして，調べたことや調べたことを再構成した吹き出しや会話文を活用して話し合い，自分の考えを表現したり，他の児童の意見と比較・関連付けることで，自分の考えを深めさせていきたい。話合い活動では，話合いワークシートを作成し，自分の考えや相手の考え，相手への質問等を整理し，スムーズに話合いができるようにする。

(ｲ)　当時の人々に手紙を書く活動を取り入れたまとめの工夫

学習のまとめの段階では，自分で調べたことや話し合ったことを活用して，当時の人物に手紙を書く。人々の業績や心情の理解を通して，現在の自分たちの生活が成り立っていることを考えさせる。

(3) 授業の実践

ア　単元名　世界に歩み出した日本

イ　目標

○　日清・日ロの戦争や条約改正，科学の発展などに関心をもち，意欲的に調べようとする。【関心・意欲・態度】

○　我が国の国力が充実し，国際的地位が向上していった様子を，人物の動きや産業の発展，外国との関係を通して考えることができる。【思考・判断】

○　年表や写真，文章資料，地図，グラフなどの資料を効果的に活用して，日清・日ロの戦争，条約改正，科学の発展の様子を調べるとともに，調べたことを目的に応じてまとめることができる。【技能・表現】

○　日清・日ロの戦争における勝利や条約改正，科学の発展などを通して，我が国の国力が充実し，国際的地位が向上していったことが分かる。【知識・理解】

ウ　学習計画及び評価規準（５時間取り扱い）

〔関〕…関心・意欲・態度　〔思〕…思考・判断　〔技〕…技能・表現　〔知〕…知識・理解

次	時	主な学習活動	活用の視点	評価規準（評価方法）
1	1	1　前単元を振り返り，明治維新以降の日本の近代化について確認する。 2　単元の学習計画を立てる。	前単元の既習内容（学習計画）	〔思〕明治以降の日本や日本と外国との関係について追究するための学習の計画を立てている。（ノート・学習計画表）
2	2	1　明治以降の日本や日本と外国との関係の変化について調べる。 2　自分の関心や疑問をもとに，追究していく問題を設定する。	習得した知識（学習問題）	〔知〕おおまかな時代の流れや関係のある歴史的事象をとらえている。 〔思〕日本の国力が充実し，国際的地位が向上していく様子をとらえていくための問題を設定している。（ノート・学習計画表）
3	4	1　日本の国力が充実し，国際的地位が向上していく様子を調べる。 2　調べたことをまとめる。	習得した知識（知識の再構成）	〔技〕我が国の近代国家としての発展の様子を，人々の生活の変化や社会の変化と関連付けて調べている。（ノート）
4	3本時 ② 5	1　調べたことをもとに話し合う。 ＜方法＞パネルディスカッション ①　準備をする。　②　話し合う。 2　活動を振り返る。	習得した知識（意見交換による比較・関連付け）	〔思〕歴史的事象の意味や当時の人々の願いや心情を考えている。 〔思〕話し合いを通して，自分の考えを深めている。（ワークシート・発表）
5	1	1　当時の人々の働きについて自分の考えを書く。 2　自分の考えを発表し合う。 3　単元全体を振り返る。	これまでの学び（総合して手紙に表現，自己評価）	〔思〕現在の自分の立場から，当時の人々の働きや心情を考えている。 〔関〕自分たちの生活の歴史や当時の人々への関心をもとうとしている。（手紙・自己評価表）

エ　本時の指導

(ｱ) 目標

調べたことを活用し，当時の人々の願いや心情を考えながら話し合い，自分の考えを深

めることができる。

(ｲ) 活用の視点

○　自分で調べたり考えたりして習得した知識を基に発表する。

○　友達の意見と比較・関連付けし，自分の考えとして活用する。

(ｳ) 準備・資料　　話し合いワークシート，自己評価表

(ｴ) 展開　　※　配慮を要する児童

学　習　活　動	指導上の留意点及び評価
1　単元の学習問題を確認する。 明治以降の日本は本当に国力が向上したのだろうか。	・　単元の学習問題を確認し，「日本はどのように変わったか」「日本と外国の関係はどのように変わったか」について，常に意識して活動できるようにする。
2　本時の学習課題を確認する。 当時の人々になりきって話し合いをしよう。	・　ワークシートには，「自分の考え」相手への「質問」，それに対する「相手の意見」等の項目を用意しておき，自分の考えを整理しやすくするとともに，自分の役割を理解し，自信をもって話合い活動に参加できるようにする。
3　調べたことをもとに話し合う。 (1) 話合いの場面を確認する。 ①　時期を確認する。 ②　パネラーを確認する。 ③　話し合うときの約束事を確認する。 ＜不平等条約の改正＞ ○ノルマントン号事件 ・船長　・裁判官 ・日本人乗客　・陸奥宗光 ・小村寿太郎 ＜日清・日ロの二つの戦争＞ ○日清戦争・日ロ戦争 ・日本の軍人　・ロシアの軍人 ・中国の軍人 ○当時の人々 ・日本　・ロシア ・中国　・朝鮮 ・与謝野晶子 ＜国際社会で活躍する日本人＞ ・北里柴三郎　・志賀潔 ・野口英世　・樋口一葉 ＜フロアー＞ ・現代の日本人	・　調べたことを活用し，当時の人々になりきって意見を述べることにより，歴史的事象の事実だけでなく，当時の人々がどのような気持ちや考えで行動したかをとらえさせたい。 ・　話合い活動では，「歴史的事象を自分がどう考えるか」ではなく，「その当時の人々がどのように考えていたか」を考え，当時の人々になりきって話し合うことを確認する。 ・　フロアー役の児童は，質問事項をあらかじめ考え，ワークシートにまとめておく。 ・　教室の前面に，児童が調べたことを視点ごとにまとめておき，掲示しておく。そして，常時学習内容を振り返り，話合い活動に活用できるようにする。 ・　他の立場の人の意見を聞くことで，同じ事象に対して様々な意見があることに気付かせる。 ・　聞いた意見の中で重要なことはメモをとるようにし，相手の意見を理解したり，自分の考えを深めたりするのに役立たせる。 ・　コーディネーター役は教師が行い，それぞれの立場での意見を出させ，円滑にに話合いが行えるようにする。 ・　パネラーの意見発表の後には，お互いに質問する時間を設け，その事象に対する理解を深めさせる。 ・　様々な立場の人々の意見を聞き，自分の考えに活用させる。そして，日本が発展していくには多くの人の努力があったことをとらえさせる。 〔思〕話合い活動を通して，歴史的事象の意味や人々の願い，心情について自分の考えを深めている。(ワークシート・発表)
(2) 話合いをする。 ①　当時の人々の立場に立って意見を述べる。 ②　他の人に意見や質問をする。	※　自分の考えを発表できない児童には，ワークシートに励ましの言葉を書いたり，助言したりして発表に自信をもてるようにする。 ※　友達の意見を自分の考えに活用できない児童には，ワークシートを基に，自分の考えを整理したり，自分と友達の考えを比較したりさせる。
4　話合いを通して感じたことや考えたことを発表する。 (1) 自分の考えを書く。 (2) 発表する。	・　当時の人々の努力があったからこそ，現在の私たちの生活があることに気付かせたい。
5　学習を振り返る。 (1) 自己評価をする。 (2) 学習のまとめをする。	・　次時は，現在の自分の立場から，当時の人々の働きや心情を考え，手紙を書くことを知らせる。 ・　学習内容に対する理解と学習の進め方の両面から自己評価する。

(4) 授業の分析と考察

ア　知識を習得するための学習活動について

調べ学習では，調べたことを見直し，当時の人物の業績や心情を短い文章で吹き出しや会話文に再構成した。児童は，調べたことを見直したことで，人物についての理解が深まった。その中で児童は，当時の人々になりきり，「何を考えていたのだろうか」，「そのために何をしたのだろうか」という視点から自分の考えをまとめていた。また，「当時の人々がなぜそのように考えたのか」と，歴史的背景をとらえようとしたり，その結果「日本はどのように変わったのか」，「日本と外国との関係はどうなったか」等，その歴史的事象の背景や経過・結果・影響について考え，当時の人物の気持ちになって事象をとらえようとしていた。自分で調べたことを基にして，吹き出しや会話文を取り入れて再構成する学習は，当時の人物の業績や心情について理解し，知識を習得する上で有効であったと考える。

イ　習得した知識を活用する表現活動について

(ｱ)　パネルディスカッションによる表現活動の工夫について

当時の人物になりきってパネルディスカッションを行った。話合いの第１時では，条約改正や日清・日ロの戦争等の事象について，それぞれかかわった人物が，その時の状況や心情を発表し合った。ノルマントン号事件にかかわった人物としては，日本人乗客役の児童が，事件の悲惨さや裁判の進行の不公平さを述べたのに対して，船長役の児童は，当時，日本と外国が結んでいた条約を理由に，裁判は妥当であったことを主張した。意見の交換を行うことで，当時の日本と外国の関係や不平等条約の内容について理解を深めることができた。また，陸奥宗光や小村寿太郎役の児童が，なぜ条約改正を行おうとしたのか，どのようなことを行ったのかを述べ，条約改正の経過について理解することができた。日清・日ロの二つの戦争にかかわった人物としては，日本の軍人役の児童が，当時の日本の状況を考えると，戦争に勝って日本の力を外国に分かってもらうしかないと主張したのに対して，中国や朝鮮の人々役の児童は，戦争のために多くの悲しみ，苦しみがあったと主張した。二つの戦争を日本の国力の向上と戦争が与えた損害という二つの面からとらえることができたことは，歴史的事象における事実を理解したり，当時の人々の願いや心情を理解する上で有効であった。また，与謝野晶子役の児童は，弟に書いた詩を発表し，戦争がどれだけ人々に苦しみを与えたかを語り，戦争反対を主張した。さらに，北里柴三郎や野口英世役の児童は，医学の研究に取り組み，日本の医学が国際的に認められたことを主張した。話合いを通して，当時の日本は，それぞれの立場によって様々な意見があることを知ることができた。

パネルディスカッションの様子

第２時では，「日本の国力は向上したか」をテーマに話し合った。ノルマントン号の船長や日本人の乗客役の児童は不平等条約という，日本が置かれた状況や外国との関係から，陸奥宗光や小村寿太郎役の児童は条約改正の立場から意見を述べた。日本の国力を日本と外国との関係という視点からとらえると，不平等条約が改正されたことから，日本の国力は向上したと考える児童が多かった。また，軍事力という視点でとらえると，日清・日ロの二つの戦争に勝利したことから，日本の軍人役の児童は，日本の国力は向上したと主張した。しかし，日本人役の児童は，戦争で多くの人々が亡くなったり傷ついたりしたこと，生活が苦しかったこと等を理由に，戦争には勝っても国民の生活が豊

かになったとは言えず，国力は向上していないと主張した。与謝野晶子役の児童も徹底して戦争反対の立場から意見を述べ，国力は向上していないと主張した。フロアーの児童からは，戦争により外国に多くの損害を与えたことや日本人の生活が依然苦しかったことを認めつつも，二つの戦争に勝利したことは日本の国際的地位が向上したと言うことができ，日本の国力が向上したと考える児童が多かった。さらに，北里柴三郎や野口英世役の児童は，医学という視点から日本の国力をとらえると，大きく向上したと主張した。

話合いは，日本の国力を，不平等条約，二つの戦争，医学などの視点からとらえ，活発に意見交換が行われた。自分で調べたことを基に，考えをまとめ，習得した知識を活用して意欲的に発表することができていた。話合い前に「国力が向上した」と答えた児童は，35人中21人であったが，話合い後は，32人へと増えた。その理由として，不平等条約が改正されたことや二つの戦争に勝利したこと，日本の医学が進歩したこと等が挙げられた。自分の考えを友達の考えと比較・関連付けすることで，さらに知識を活用し，考えを深められたと考える。

また，話合いでは，ワークシートを作成し，活用した。ワークシートには，「自分の考え」，「相手への質問」，それに対する「相手の意見」等の項目を設け，話し合う前に必要な箇所を書き込み，話合い活動を行った。話合いでは，自分の考えをきちんと述べたり，相手への質問や反対意見を述べることができていた。ワークシートは，話し合う前に自分の考えを整理したり，相手の立場を考えたりする上で効果的であったと考える。

(ｲ) 当時の人々に手紙を書く活動を取り入れたまとめの工夫について

学習のまとめとして，調べたことや話し合ったことを活用して，当時の人々に手紙を書いた。野口英世への手紙には，当時の状況や英世の業績だけでなく，英世の活躍があったからこそ，今の私たちの生活が成り立っていると感謝の気持ちを表していた。（図１）当時の人々の業績や心情の理解を通して，私たちの生活をよりよくしていこうとする児童が多く見られた。

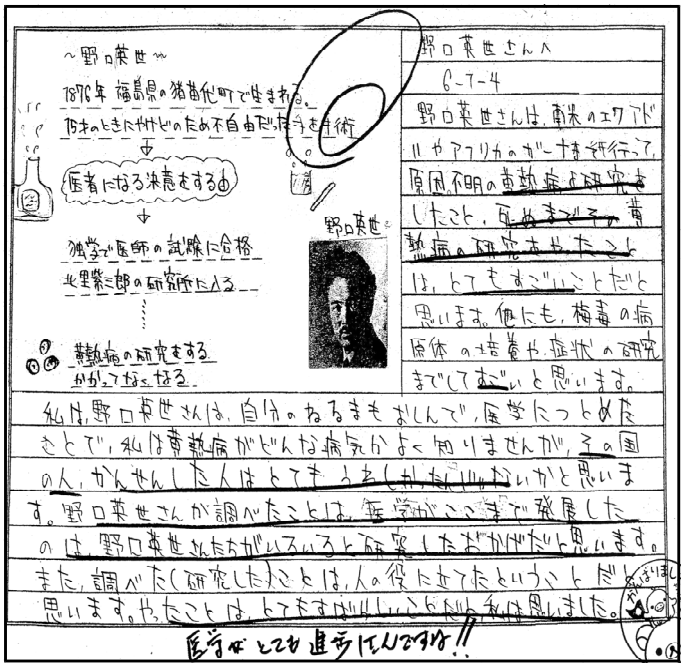


図１　児童が書いた手紙

(5) 授業研究の成果と課題

ア　成果

○　自分で調べたことを基にして，吹き出しや会話文を取り入れて再構成する学習は，当時の人物の業績や心情について理解し，知識を習得する上で効果的であった。

○　パネルディスカッションを取り入れた活動は，習得した知識を活用し，自分の考えと友達の考えを比較・関連付け，表現する上で効果的であった。

○　当時の人々に手紙を書く活動は，調べたことや話し合ったことを活用して実生活との結び付きを考える上で効果的であった。

イ　今後の課題

○　学習計画を立案する段階で，児童が調べたり考えたりしたことを自分のまとめに活用するための具体的な手立てをさらに工夫していきたい。

【授業研究２】　　中学校第１学年歴史的分野「東アジア世界とのかかわりと社会の変動」における習得した知識を活用する学習指導の工夫

(1) 研究のねらい

本単元は，鎌倉幕府滅亡後から応仁の乱後までの武家社会の展開を理解させるとともに，その間の東アジア世界とのかかわりに気付かせ，さらには諸産業の発達と社会の変化を理解させ新たな文化の特色について考えさせることをねらいとしている。室町時代は，武士だけでなく民衆にも活力があり，民衆の地位が大きく向上した時代である。農村では村ごとに自治が行われ，貿易で栄えた都市では町衆とよばれる裕福な商工業者によって町の政治が行われ，民衆による一揆も多発した時代である。産業の発展とともに民衆が成長したことにより地方の文化が発達し，今日の文化にも大きくかかわっている。民衆の動きを中心に政治・経済・文化等を調べることで，時代の特色をとらえることができる単元である。

表１は，本単元学習前における生徒の実態調査の結果である。室町時代については，雪舟や足利義満，足利義政など限られた人物の知識しかなく，人々の生活に関しても，「貧しい，苦しい」など部分的にしかとらえていない。また，自分と友達が調べたことを関連付けて考えたり自分たちの生活と結び付けたりして考えた経験があまりないことが分かる。

表１　社会科の歴史的分野に関する実態調査
（平成19.10.５実施　第１学年２組36人）

質　問　項　目	回　　答 ※１，２は複数回答
１ 室町時代に活躍した人物は誰ですか。	雪舟（11）足利義満（10）足利義政（９）足利尊氏（６）織田信長（３）
２ 室町時代の人々はどんな生活をしていたと思いますか。	貧しい，苦しい（22）鎌倉時代より裕福（６）新しい技術を開発（１）　無答（10）
３ 歴史の調べ学習で，自分と友達の調べたことを関連付けて考えたことがありますか。	よくある（５）時々ある（10）あまりない（17）ほとんどない（４）
４ 今までの歴史の学習を，今の日本人の生活と結びつけて考えたことがありますか。	よくある（３）時々ある（９）あまりない（19）ほとんどない（５）

そこで本単元では，民衆の動きを中心に政治・経済・文化等をまず各自で調べさせることで基本的な歴史的事象を理解させる。そして，各自が習得した知識を互いに交流させる場を設けたり，話合い活動を取り入れたりすることで，各自の歴史的事象に対する見方・考え方を深めさせたい。その結果，各自が民衆の地位向上に気付き，一人称で室町時代の特色を表現できるようにする。これらの学習を通して本研究のねらいに迫りたいと考える。

(2) ねらいに迫るための具体的な手立て

ア　知識を習得するための学習活動

本単元では，問題解決的な学習を行い，学習過程をつかむ・調べる・まとめるの３段階として学習を進める。つかむ段階では，現代に続いている身近な室町時代の文化を扱うことから室町時代に興味をもたせ，そこから単元全体を貫く学習問題を設定し，調べる意欲を高めさせる。次に，その意欲を持続させながら室町時代の大まかな歴史の流れを年表を使って理解させ，基礎的な知識としてとらえさせる。基礎的な知識（史実）は「政治」，「産業」，「東アジアとの関係」，「社会の変化」，「文化」等の視点に分類し，その中から各自の学習問題を選択して調べ，単元を貫く学習問題の解決を図る。その中で各自が選択

した学習問題を様々な資料を適切に選択して追究し，個別指導を繰り返すことで調べた事実から分かることや考えられることを各自まとめ，知識の習得へと結び付けたい。

イ　習得した知識を活用する表現活動

調べ学習を基に各自が習得した知識を活用する交流の場を設け，他の学習問題との関連付けを図ることで多面的に考察するようにする。また，まとめる段階においては，代表生徒による単元を貫く学習問題に対する基調提案を行う。そして，基調提案と自分が調べ考えたことを関連付ける話合いの場を設定し，話合いの後に今までの学びを活用して室町の時代観を一人称で表現させるようにする。

(3) 授業の実践

ア　単元名　　東アジア世界とのかかわりと社会の変動

イ　目標

○　武家政権の成立後の政治，社会，文化の動きに対する関心を高め，意欲的に追究し，文化遺産を尊重しようとする。【関心・意欲・態度】

○　武家政権の成立後の政治，社会，文化の動きから課題を見いだし，歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察することができる。【思考・判断】

○　武家政権の成立後の政治，社会，文化の動きに関する様々な資料を収集し，適切に選択して活用するとともに，追究し考察した結果をまとめたり説明したりすることができる。【技能・表現】

○　武家政権の成立後の政治，社会，文化の動きを我が国の歴史とかかわる東アジア世界の歴史を背景に理解し，その知識を身に付けることができる。【知識・理解】

ウ　学習計画及び評価規準（８時間取り扱い）

〔関〕…関心・意欲・態度　〔思〕…思考・判断　〔技〕…技能・表現　〔知〕…知識・理解

次	時	主な学習活動	活用の視点	評価規準（評価方法）
1	1	1　今日に残る室町文化について知る。 2　単元を貫く学習問題を設定する。 室町文化が今も息づいているのは，室町時代がどんな時代だったからだろう。 3　単元を貫く学習問題の予想を立てる。	小学校６年生の既習内容 現在の生活（学習問題）	〔関〕今に残る室町文化を知ろうとしている。（発表，ノート） 〔思〕室町時代の時代観をつかむための単元を貫く学習問題を設定している。　（ノート）
	2	1　元寇から応仁の乱までの歴史の流れを大観する。 2　単元を貫く学習問題を解決するのための調べる視点を確認し，各自の学習問題を選択する。		〔知〕元寇から応仁の乱までの主な歴史的事象を理解している。　（発表，ノート） 〔思〕単元を貫く学習問題解決のために各自の学習問題を設定している。　（発表）
2	3 ～ 5	1　各自の学習問題解決のための学習計画を立てる。 2　各自の学習問題を追究し，まとめる。	調べ学習で習得した知識 （自分の考え）	〔思〕各自の学習問題解決のための学習計画を立てている。 （発表，ワークシート） 〔技〕学習問題解決のために必要な資料を選択収集するとともに追究したことをまとめてい

				る。（ワークシート）
	6・7	1　ポスターセッションを行い，各学習問題との関連付けを図る。	学習問題ごとに習得した知識（発表，考えの交流）	〔思〕各自追究してきたことと他の学習問題を関連付けている。（発表，話合い）
3	8（本時）	1　単元を貫く学習問題に対する基調提案を行う。 2　基調提案に対する話合いをする。 3　室町時代に対する時代観をまとめる。	今までの学びで習得した知識（比較，関連付け，総合，時代観の表現）	〔思〕基調提案をもとに今までに習得した知識を関連付け，室町時代の時代観をまとめている。（ワークシート）

エ　本時の指導

(ｱ) 目標

単元を貫く学習問題に対しての基調提案を基に今までに習得した知識を関連付け室町時代の時代観をまとめることができる。

(ｲ) 活用の視点

○　基調提案と自分が調べ考えたことを関連付ける。

○　現在の日本人の生活と結びつけて考える。

○　生徒一人一人が室町時代の時代観を形成する。

(ｳ) 準備・資料

写真（書院造・和菓子・とうふ・水墨画・生け花），のれん，生徒作品，フラッシュカード，ワークシート

(ｴ) 展開　　※配慮を要する生徒

学習活動・内容	指導上の留意点及び評価
1　単元を貫く学習問題を確認する。 室町文化が今も息づいているのは，室町時代がどんな時代だったからだろう。	・　今に残る室町の文化を示す写真資料等を提示し，単元を貫く学習問題を解決するために自分のまとめたいポイントについてイメージさせる。
2　本時の学習課題を確認する。 室町時代に対する時代観をまとめよう。	・　前時までの学習を確認し，各自が習得した知識を活用して課題解決を図ることを伝え，本時の学習への意欲を高める。
3　単元を貫く学習問題に対して代表生徒による基調提案を行う。 ＜社会の変化の視点から提案＞ ○商工業者や農民など一般民衆の地位が向上したことにより，庶民の文化が発展した。 ○応仁の乱後，貴族が都から地方に逃れ，都の文化を伝えた。	・　発表者には大きな声ではっきり話すように伝え，聞く側に対しては各自が追究してきた学習問題との関連に気を付けて聞くように伝える。 ・　発表者のキーワードはフラッシュカードで黒板に構造的に提示し，聞いている生徒が理解しやすいようにする。
4　基調提案をもとに，室町時代の時代観について話し合う。	・　学級全体で話し合わせ，話合いが進まない時は，適宜同じ課題で追究したグループ内での話

＜話合いの視点＞ ○自分たちが追究してきたことに対する考え ・政治　・東アジアとの関係 ・文化　・産業　・社会の変化 ○基調提案の主張と自分たちが追究してきたこととの関連。 5　室町時代の時代観を各自でまとめる。 6　次時の学習内容を知る。	合いに切り替えるようにする。 ・　各自の習得した知識を互いに発表させ，意見交換をして，考えを練り上げる。 ・　各自が追究してきた視点から発表させていき，意見を板書等で互いに関連付けることで室町時代の時代観をとらえる参考にする。 ・　今の日本人の生活との関連を意識させて発言させ，文化や伝統の継続ということを実感できるよう助言する。 ・　本時の話合いや前時までの学習等で習得した知識を活用してまとめさせるようにする。 ［思］基調提案をもとに今までに習得した知識を関連付け，室町時代の時代観をまとめている。（ワークシート） ※まとめられない生徒には，板書事項を参考にして箇条書きで記入するよう助言する。 ・　何人かの生徒に発表させていき，自分の考えと比較させるようにする。 ・　近世の日本について学習することを伝える。

(4) 授業の分析と考察

ア　知識を習得するための学習活動について

つかむ段階で室町文化について習得した知識を扱ったことで，生徒はこの単元にスムーズに入ることができた。ここで習得した知識とは，小学校第６学年の歴史学習で学んだことや実生活において実感をもった理解がなされている内容である。本実践においては小学校第６学年の歴史学習において学習した「書院造」の写真を生徒に提示した。そして，自分の家と比較させ，共通点を挙げさせたところ，「畳がある，障子がある，自分の家では掛け軸がある所と同じだ。」という意見が多く出た。また，大福餅や羊かん等の和菓子の写真を見せ，室町時代に広まった食べ物であることを伝えると，その歴史の長さに驚く生徒も見られた。その後，室町時代に生まれたり広まったりしたものには他にどんなものがあるかを教科書や資料集等を使って調べさせると，女性の和服や「浦島太郎」，「一寸法師」等のお伽話，さらには喫茶の風習やお正月・お盆等の慣習がこの時代に生まれたことが分かった。特に「一寸法師」の内容を確認し合ったことは下剋上の内容が含まれているので，室町時代がどんな世の中だったかを予想するのに効果的であった。このように室町時代と現在の生活を結び付ける学習活動を行ったことは「室町文化が今も息づいているのは，室町時代がどんな時代だったからだろう。」という単元を貫く学習問題を追究する意欲を高めるのに十分であった。単元を貫く学習問題を設定した後に大まかな歴史の流れを概観し，歴史的事象の中から「政治」「産業」「東アジアとの関係」「社会の変化」「文化」という視点を設けたことで，単元を貫く学習問題解決のための切り口が明確になったと考えられる。

調べ学習では，文章資料を豊富に用意し，個別指導を繰り返し，調べたことを再構成させた。この学習を通して，生徒は自分が選択した視点から室町時代の時代観をもち，知識を習得したと考える。

イ　知識を活用する表現活動について

調べ学習の後に，単元を貫く学習問題に対する自分の考えを，ポスターセッションを通して互いに交流する場を設けたことで，生徒は他の学習問題との関連に気付き，さらに知識の習得を図ることができた。また，まとめる段階における基調提案と話し合いでは，これまでの学習で習得した知識を他者の考えと比較・関連付けながら再構成することができた。このようにして，スパイラル的にとらえられた習得した知識は室町時代の時代観をまとめるという学習を通して活用することができた。

図１は生徒の「室町の時代観」である。追究してきた視点から，収集した情報や考えを組み立てて論理的に時代観を表していることが分かる。A は農業技術の向上が農民の力を増大させ，自治的組織である惣を形成し，大名に抵抗するような勢力に成長したことを表現している。また，B は農民の視点から，農民の勢力増大により社会が大きく変化し，そこから文化が生まれていく歴史の流れについて，生徒なりの考えを加えて表現していることがうかがえる。

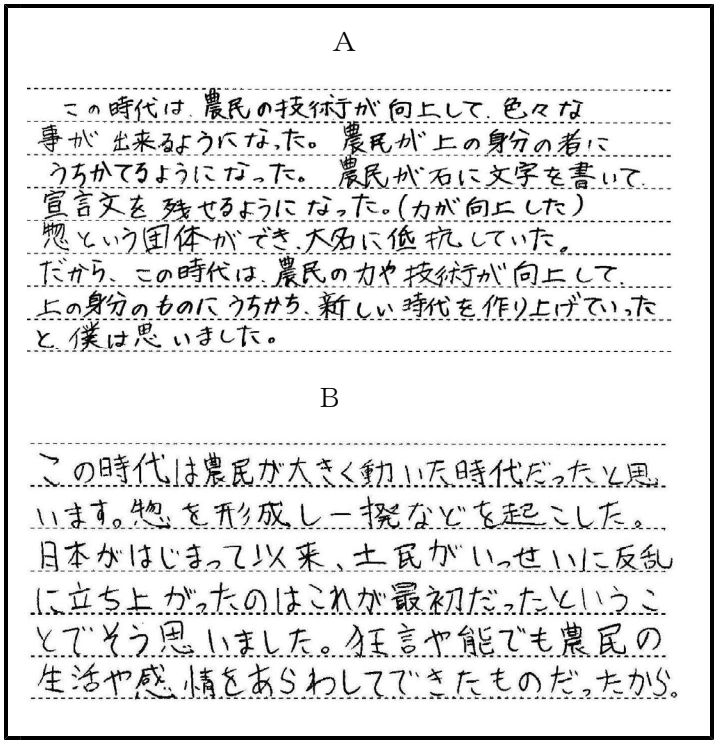
これらは一例であるが，他の生徒の記述でも時代の特色を的確にとらえており，ポスターセッションや基調提案を取り入れた学習は，習得した知識を活用させる上で効果的であった。

(5) 授業研究の成果と課題

ア　成果

○　単元を貫く学習問題を設定したことにより導入段階から習得した知識を活用することができた。また，調べ学習では個別指導を繰り返したことにより生徒は自分が選択した視点から室町時代の時代観をもち知識を習得することができた。

○　ポスターセッションや基調提案を取り入れた学習により，習得した知識を活用し，他者の考えと比較・関連付けながら自分なりの室町時代の時代観を再構成し，時代の特色をとらえることができた。


A

この時代は、農民の技術が向上して、色々な事が出来るようになった。農民が上の身分の者にうちかてるようになった。農民が石に文字を書いて宣言文を残せるようになった。(力が向上した)惣という団体ができ、大名に抵抗していた。だから、この時代は、農民の力や技術が向上して、上の身分のものにうちかち、新しい時代を作り上げていたと、僕は思いました。

B

この時代は農民が大きく動いた時代だったと思います。惣を形成し一揆などを起こした。日本がはじまって以来、土民がいっせいに反乱に立ち上がったのはこれが最初だったということでそう思いました。狂言や能でも農民の生活や感情をあらわしてできたものだったから。

図１　生徒の記述例「室町の時代観」

イ　今後の課題

○　本実践では,生徒が習得した知識の活用をめざした授業の在り方について追究したが,さらに思考力や表現力を高める具体的な手立てについて研究していきたい。

【授業研究３】　　高等学校第２学年日本史Ａ「歴史と生活　－生活文化の変化－」における習得した知識を活用する学習指導の工夫

(1) 研究のねらい

本研究においては,「歴史と生活」で扱う内容の中から「ア　衣食住の変化」を選択し，習得した知識の活用について授業実践を行った。

本単元は，高等学校学習指導要領　第２章　第２節　地理歴史　第３　日本史Ａ　２　内容(1) 歴史と生活によれば「身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し追究する学習を通して,歴史への関心を高めるとともに,歴史的な見方や考え方を身に付けさせる」とあり，ア　衣食住の変化では,「日常の生活の中で接している衣食住がどのように変化してきたかを，社会的な背景と関連付けて追究させる」ことが示されている。そして，３内容の取り扱い(3) アにおいて「…，作業的，体験的な学習を重視して実施すること」とある。そこで，人間生活に最も密接に関わる衣食住について，実感をもって理解できるように作業的，体験的な学習活動を通して，日本史への関心を高めることをねらいとした。

表１は，日本史学習に対する生徒の実態調査の結果である。生徒は学習活動としては，作業的・体験的な活動を好んでいることが分かる。また，授業で学んだことを自分の生活と結び付けて考えた経験のない生徒は，ほとんどないとあまりないを合わせると約４分の３を占めている。日本史は過去の出来事を覚える科目であり自分の生活に直接関係があると考えていない生徒が多かった。

これらの結果を踏まえて，本実践においては，明治時代の人々の衣食住について調べ学習を行い，調べたことを基に当時の社会や歴史的事象について理解を図る。

表１アンケート集計結果(平成19年11月１日実施２年M組27人)

1　あなたが楽しいと感じて自分から行いたいと思われる日本史の学習活動は何ですか。(複数回答可)(人)	
見学や調査などの体験的な学習	16
興味や関心のある学習内容の調べ学習	17
クラスでの話合い活動	2
小グループなどでの話し合いを通じて，考えを深め合う活動	8
先生から助言や説明を聞きながら進める学習活動	7
2　今までの歴史の学習を，今の私たちの生活と結び付けて考えたことがありますか。(人) よくある(2)　時々ある(5) あまりない(12)　ほどんどない(8)	

具体的には,今回授業を実践するクラスでは１名を除いて全て女子であることから,明治時代の女性像を描くことを通して，当時の生活や歴史的事象を理解させたい。特に，生活について調べる場面では，様々な歴史的事象が今日の自分たちの生活の中に息づいていることやその積み重ねの上に自分たちの生活が成り立っていることを実感させたい。この学習を通して，生徒には既習事項とともに，調べ学習において調べた内容を習得した知識ととらえ，それらを発表会で活用して表現することで，本研究主題に迫りたい。

(2) ねらいに迫るための具体的な手だて

ア　知識を習得するための学習活動

授業の導入段階では，資料集に載録された日本史年表に茨城県関係の出来事を加えた歴史年表を教師が作成し，生徒に配付する。それをもとに生徒には明治時代の概観を解説し，近代化への努力について理解させる。その後，生徒を５～６人のグループに分け，班ごとに

衣食住に関するテーマを設定させ,図書館やコンピュータ室を利用して調べ学習を行う。そこでは,明治時代を生きた女性の姿を考えるのに必要な知識を集めさせるとともに,明治時代を理解させるために，一般民衆の生活に直接影響を及ぼした歴史的事象(「戸籍令」,「地租改正」,「松方デフレ」,「日清・日露戦争」など)も必ず調べ，理解しておくようにする。調べ学習が終わったら各班が描く女性像に迫るために，調べたことを基に話合いなどを行い,明治時代の様子についてまとめる。この学習を通して,生徒は明治時代の女性を取り巻く情勢についての知識を習得すると考える。

イ　習得した知識を活用する表現活動

明治時代の衣食住を通して当時の社会背景を理解させるために，明治を生きた女性の一代記を描かせる。物語の基本設定は，主人公を架空の人物とし，江戸時代末年，現在の茨城県域の生まれということにした。名前や出生地，家族の様子，成長過程と悩み，結婚,平均寿命そして死因など，物語を作成するにあたって必要な項目については自由に設定させる。これらは，当時の民衆の生活を知るという意味から，一般的だったものを調べ，出典も明らかにさせるようにする。架空の人物にするのは,生徒が感情移入をして,女性像を描くことに集中することと,多様な生き方を考えさせることができると考えたからである。そのため，女性像は生徒と同年代とし，なるべく共感がもてるよう工夫した。

また,発表方法は自由選択とした。班員がアイディアを出し合い,全体で多様な提示資料を作り上げていくという作業を通して，最も効果的と考えられる表現方法を選択できるようにとの配慮からである。また，どの班にも主人公像はイラストで表現させることにして,視覚的にもとらえられるようにする。特に女生徒には,髪型や服装に留意させることを目的として，当時の文化面にも目を向けさせることを目指した。

以上の学習活動から,生徒は習得した知識を活用して明治の女性像を描き,発表することを通して衣食住に関する理解を深め，日本史に対する見方や考え方をはぐくむことができると考える。

(3) 授業の実践

ア　単元名　　歴史と生活－生活文化の変化－

イ　目標

○　明治時代の人々の衣食住について，意欲的に追究しようとする態度を養う。
【関心・意欲・態度】

○　明治時代の人々の衣食住について,自らの生活と比較することを通して,変化の過程とその要因について多面的・多角的に考察させる。【思考・判断】

○　明治時代の衣食住に関する資料を収集し,物語作成を行い,適切と考えられる表現方法を選択し，発表させる。【技能・表現】

○　明治時代の人々の衣食住をまとめることを通して，その背景となる歴史事象を理解し,時代を概観させる。【知識・理解】

ウ　学習計画及び評価規準(８時間取り扱い)

〔関〕・・・関心・意欲・態度　〔思〕・・・思考・判断　〔技〕・・・技能・表現　〔知〕・・・知識・理解

次	時	学習活動	活用の視点	評価規準（評価方法）
1	1	○学習に関するオリエンテーション 学習計画についての説明を受ける。班		〔関〕明治時代の人々の衣食住について，意欲的に追究し

		編成を行い，計画シートに具体的な調べ学習の方法等を記入する。		ようとしている。 （計画シート・観察）
	2	○明治時代の概観について講義を受ける。		〔知〕明治時代の大まかな様子について把握している。 （観察）
2	3 4	○明治時代の人物史を作成するために図書館，パソコン室等を利用して調べ学習を行う。 ○課題確認 ・服装，美容，結婚，食事，教育等の追究課題を決め，必要な資料収集を行う。	既習事項（記入）	〔技〕追究課題にそった資料を適切に選択している。 （ワークシート）
	5	○調べたことのまとめ 調べたことをまとめ，自分の班で選択した表現方法に即した資料を作成し，発表の準備をする。	習得した知識 （記入）	〔思〕習得した知識を活用して発表資料にまとめている。 （発表資料）
3	6（本時） 7	○発表…各班の発表を見学し，評価する。 他班及び自班の発表に対する評価。	習得した知識 （発表）	〔技〕発表資料を効果的に活用して発表し，明治時代の生活をとらえている。 （発表・評価シート）
4	8	○学習のまとめ 各班の発表を通して，明治時代を概観する。		〔知〕明治時代の概観について理解している。 （評価シート）

エ　本時の指導

(ｱ) 目標

○　各班が作成した人物像の発表資料を効果的に活用して発表し，明治時代を概観させる。

(ｲ) 準備・資料

生徒作成の発表資料，発表評価シート，自己評価シート

(ｳ) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点及び評価
1　本時の学習課題を確認する。 明治時代の人物像を通して，現在との違いを知り，今後の私たちの生活を展望しよう。	・　今回の学習の目的を確認し，評価シートの記入方法について説明する。
2　作成した人物像を班単位で発表する。 (1) 各班の作成した物語「明治を生きた人物の一代記」を発表する。 ・発表では，指定されたキーワード（歴史的事象）を含める。 ・各班に与えられた課題に対して現代と比較	・　１班の発表時間は15分とし，時間厳守を伝える。 ・　発表内容を聞いて，当時の人々の考え方や価値観などにも気付くよう助言する。 ・　キーワードが歴史的事象の意義を正確にとらえているか確認しながら聞くよう指示する。

考察した結果について報告する。 「服装」 「美容・化粧」 「結婚・出産」 「食事」 「教育」 (2) 聞き手は，発表に対する評価シートを記入する。 (3) 発表者，聞き手は課題についての考察を述べる。 3　まとめ ・教師による講評。	〔技〕発表資料を効果的に活用して発表し，明治時代の生活をとらえている。(発表・評価シート) ・　評価にあたっては，歴史的事象の意義を正確にとらえて物語を作成しているかに気を付けながら記入する。 ・　意見を述べる時には，物語のおもしろさでなく，歴史的事象が現代と違っている点について考察した結果を述べるよう助言する。 ・　評価シートを回収し，後に発表班に還元することを伝える(自己評価シートは全体の発表が終わった後に回収する)。

(4) 授業の分析と考察

ア　知識を習得するための学習活動について

生徒の興味・関心を喚起させるために，物語を作成させたことは効果的であった。生徒は意欲的に調べ学習を行い，かなり感情移入しながら人物像を創り上げていた。生徒が調べた学習課題は表２のようになるが，いずれも女子生徒ならではの内容になっている。それぞれの課題について時代背景と結びつけながら考察している様子がうかがえる。これらのことから生徒は，調べたことに対して考察を加え，知識を習得していったことが分かる。

イ　習得した知識を活用する表現活動について

各班の生徒が創作した物語を発表するときは，年表，イラスト，グラフ等が用いられて聞き手に対して自分たちの発表が分かりやすくなるようにさまざまな工夫がこらされていた。すべての班はシナリオを作成し，紙芝居を作成した班やプレゼンテーションソフトによる発表を行った班もみられた。生徒は，調べたことを話し合いなどを通して習得した知識として，これを基に物語を創作したが，次に聞き手に分かりやすく表現する段階に至り，さらに生徒なりに図化したり，文章化する学習活動を行いながら，習得した知識を活用していった。図１は，生徒の発表資料の一部であるが，当時の生活様式や工夫などについて図などを使って，分かりやすく説明していた。

また，発表後には，発表者と聞き手の両方の立場から評価シートを記入させたことで，それぞれの立場での学習活動が緊張感をもってすすめられた。

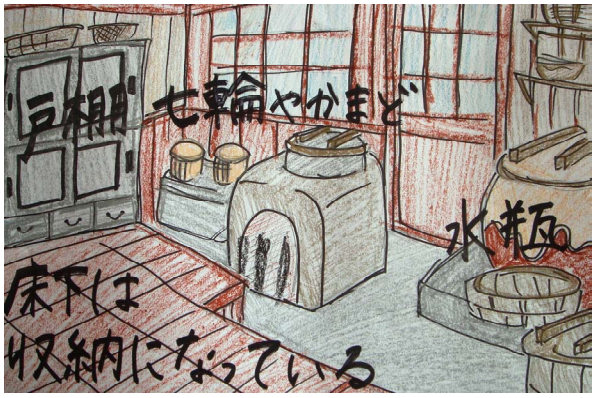


図１　生徒がイメージした明治時代の勝手場

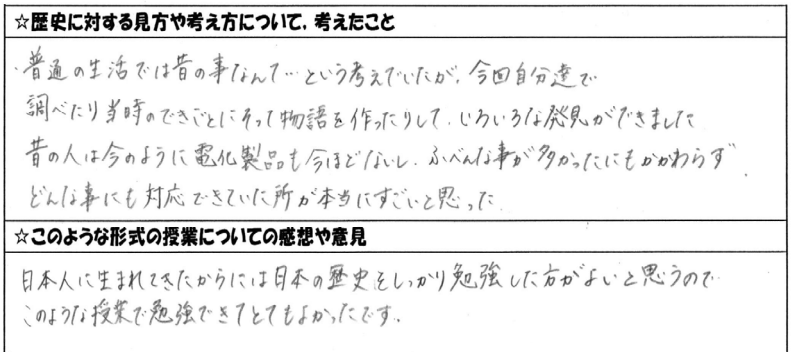
表２　生徒が調べた学習課題

服装	(内容)明治～大正～昭和の代表的な服装をイラストで示す どんな服装が流行ったのか，またそれがなぜ流行ったのか，時代背景を調べる できれば，当時の服装をしてみる (考察)現代のファッションとの機能的な違いについて 現在の私たちの流行(服装)と，今後の展望(例えば，スカートが短いのはいつまで流行るか，など)
美容・化粧	(内容)現在までの化粧品会社の創立と歴史について，年表でまとめる…広告のコピーなどを集めてもよい 流行したメイク術の変化をイラストで示す(明治～現在) 一般の女性が化粧を始めたのはいつ頃からなのか調べる (考察)人はなぜ化粧をするのか
結婚・出産	(内容)初婚年齢・第一子出産年齢の変化をグラフで表す 出生率の変化をグラフで表す 一世帯あたりの人数の変化をグラフで表す (考察)女性の結婚・出産年齢の変化と，その要因について
食事	(内容)明治～大正～昭和の一般的な食事内容を献立表として示す 摂取カロリーの時代的な変化をグラフで表す 明治時代以降，新たに取り入れられた食べ物と，できればそのきっかけについて表にする(和洋中) 台所の様子の変化をイラストで示す(台所にある生活用品(炊飯器，冷蔵庫，コンロ)の変化についてイラストにしても良い) (考察)食事内容と病気・死因との関係について
教育	(内容)全体の就学率の変化をグラフにし，あわせて女子就学率の変化も表す…女子の就学率が50%を超えた頃の日本の様子と，当時一般的だった女子教育の在り方(どのような教育を受けていたのか) (考察)明治期の女性と，現在の女性との教育目的の違いについて

(5) 授業研究の成果と課題

ア　成果

図２は，生徒が記入した授業後の感想であるが，自ら設定した学習課題に対して調べ学習を行い，習得した知識を活用して表現していく学習は，基礎的・基本的な内容の定着とともに，何よりも生徒は大きな満足感を得られることがわかった。また，歴史的事象が少なからず自分とかかわっている事を認識できた生徒がいたことは大きな成果である。


☆歴史に対する見方や考え方について，考えたこと

普通の生活では昔の事なんて…という考えでいたが，今回自分達で調べたり当時のできごとにそって物語を作ったりして，いろいろな発見ができました。昔の人は今のように電化製品も今ほどないし，ふべんな事が多かったにもかかわらずどんな事にも対応できていた所が本当にすごいと思った。

☆このような形式の授業についての感想や意見

日本人に生まれてきたからには日本の歴史をしっかり勉強した方がよいと思うのでこのような授業で勉強できてとてもよかったです。

図２　学習全体をまとめるシートの一部

イ　今後の課題

今後は，習得した知識を活用する学習活動において，過去の歴史的事象がさまざまな形で現代の自分たちの生活につながっていることを，実感をもってとらえることができるような学習活動の工夫を進めていきたい。

【授業研究４】　高等学校第１学年現代社会「現代に生きる私たちの課題」における習得した知識を活用する学習指導の工夫

(1) 研究のねらい

現代社会の目標は「現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」とある。この目標の実現を目指して，現代社会の授業においては生徒の発表による「課題追究型」の学習を実践している。

この課題追究型の学習は,ディベート形式の授業として14時間を年間指導計画に位置付け,五つの課題（地球環境問題，資源・エネルギー問題，科学技術の発達と生命の問題，日常生活と宗教や芸術とのかかわり，豊かな生活と福祉社会）について一つずつテーマを取り上げて追究学習を行っている。本実践においては，この中から四つのテーマを取り上げ，生徒が習得した知識を活用する学習指導の在り方について考察を行った。

(2) ねらいに迫るための具体的な手立て

ア　知識を習得するための学習活動

(ｱ) リサーチシートの作成

教師は論題選びのために，事前に準備したアンケートを実施する。これは，授業で取り上げる論題に関連した社会的事象に関する生徒の興味の度合いを調べるもので，賛成から反対まで５段階で記入するものである。実施後集計し，賛否が半々のものと「どちらともいえない」が多い順に生徒の論題を決定する。意見の分かれる論題の方が考えが明確に分かれ，生徒は興味をもって取り組めると考える。

生徒は学習の最初で論題に対する調べ学習を行うことになるが，授業だけでは十分な時間が確保できないので，事前に夏期休業中に二つの課題について調べておくこととする。これを前提に,授業においては５人で構成される班を１クラスで８グループ編成し,図書室で調べ学習を行う。生徒は賛否両方の立場を知ることが大切なので，肯定・否定両方の立場から立論を行い，リサーチシートに記入する。そして，グループごとに社会的事象の発生過程や深刻性を検討し，裏付けるための資料を書籍や新聞・インターネットを利用して資料作成を行う。また，プレゼンテーションなども作成して，グループ内で準備資料について理解を深めるようにしておく。この学習を通して，生徒は収集した資料をもとに話合いをしたりプレゼンテーションを作成したりして,知識の習得を図り,発表資料を作成する。

(ｲ) フローシートの記入

資料準備後は，ディベート形式の授業を行うが，生徒の意欲を高めるために，トーナメント方式で対戦する形式をとる。２回戦の四つの対戦では，二つのグループに分け，それぞれのグループごとに同一の論題で対戦する。続いて二回戦は二つの対戦を同一の論題でディベートし，最後の決勝は新たな論題で対戦することで，調べたすべての論題によるディベートが行われる。途中敗退したグループには，司会（司会者１人，タイムキーパー人２，記録２人）や審判（５人）の役割が回ってくるので，聞き手一方になってしまうことのないように工夫する。

ディベートでは肯定側一班，否定側一班がディベーターとなり，審判一班，司会一

班が割り当てられた後，残りは全員聴衆としてフローシートの記入を行う。記入に際しては，立論の発生過程や深刻性を評価し，証拠資料は充分か，有効な反駁がなされているか等を総合して，各自が勝敗を判定する。試合終了後は多数決で勝敗を確認し，審判団は聴衆の意見を参考にしながら最終的な判定を行う。フローシートを正確に記入するためには発言者の意見に真剣に傾聴することが不可欠なので，１回目のディベートは２時間かけて，教師はフローシートの記入方法も説明しながら，実施する。フローシートに記入することによって議論の流れを明確にし，論題に対する理解を深めることで，知識の習得を図りたい。

イ　習得した知識を活用する表現活動

すべての対戦が終了したら，生徒はアフターディベートシートを記入し，自分の学習態度や各チームの取組みに対する評価を行なう。ディベートの技術だけでなく，習得した知識を活用して論点に対する多面的・多角的な考察を行い，ディベートの前と後では自己にどのような変容が見られたかを自己評価という形で表現させたい。

(3) 授業の実践

ア　単元名　現代に生きるわたしたちの課題

イ　目標

○　現代社会の諸問題について関心をもち，課題を設定し，意欲的に追究しようとする態度を養う。【関心・意欲・態度】

○　現代社会の諸問題について課題を見いだし，多面的・多角的に考察させる。【思考・判断】

○　現代社会の諸問題に関する諸資料を収集・活用して意見をまとめ，考察した経過や結果を適切に表現させる。【技能・表現】

○　現代社会の諸問題の現状や問題点，本質及び学び方について理解し，基本的な知識を身に付けさせる。【知識・理解】

ウ　学習計画及び評価規準（14時間取り扱い）

［関］…関心・意欲・態度　［思］…思考・判断　［技］…技能・表現　［知］…知識・理解

次	時	主な学習活動	活用の視点	評価規準（評価方法）
1	1	オリエンテーション ・学習目標の説明，ルール解説，論題決定，チーム編成，トーナメントスケジュール 作成（組合せ抽選，司会，審判等役割分担決定）		［関］現代社会の諸問題について関心をもち，課題に対して，意欲的に追究している。（観察，トーナメント表）
2	2 ～ 5	調べ学習 ・図書室で書籍・インターネ ット等を利用して調べ学習を行い，証拠資料を収集する。 ・リサーチシートの記入 ・プレゼンテーション作成	・習得した知識（立論）	［技］自分の課題について，図書室の書籍やインターネットなどを活用して証拠資料を収集し，発表している。（リサーチシート） ［思］作成した証拠資料に基づいて，論題を適切にとらえ，立論している。（リサーチシート，フローシート）
3	6	HR内トーナメントを行う。（第一試合のみ2時間・他各1時間）	・習得した知識（発言，表現）	［思］ディベーターは，論題に対する証拠資料が適切に作成され，根拠に基づいた筋道の通った論議を

	〜13（本時は13時）	・1回戦 論題1「地球温暖化防止のために，発展途上国も温室効果ガスの削減義務を負うべきである。」 論題2「日本は原子力エネルギーの開発・利用を推進すべきである。」 ・2回戦 論題「日本でも尊厳死・安楽死を認めるべきである。」 ・決勝戦 論題「人間に宗教は必要である。」		行っている。 （発表・リサーチシート・フローシート） ［思］聴衆はディベーターの証拠資料や意見をに基づいて，フローシートを作成して公正に判定を行っている。（フローシート）
4	14	アフターディベートシートの記入 ・学習のまとめ	・自己評価	［知］話合いを通して習得した知識を活用して，論題についての自分の意見をアフターディベートシートに表している。（アフターディベートシート）

エ　本時の指導

（ｱ）目標

聴衆はディベーターの証拠資料や意見に基づいて，フローシートを作成して，公正に判定を行わせる。

（ｲ）準備・資料

リサーチシート，発表用資料（ディベーター），ジャッジメントシート（審判）
ストップウオッチ，タイムボード（司会），フローシート（全員）

（ｳ）展開

学　習　内　容・活　動	指導上の留意点および評価
1　ディベートによる話合い（5分） ・本時の学習内容を知る ・司会，審判の打ち合わせ，肯定側・否定側発表準備 ・論題の提示　「人間には，宗教が必要である。」	・司会は肯定側・否定側を指示し，事前に先入観をもたせないようにさせる。 ・司会進行には必要に応じて助言する。ディベーターにルール違反があった場合は指摘し，修正させる。
2　ディベーターは事前に準備した資料を活用して，立論を聴衆に分かりやすく説明する。 **ディベートの進め方** ＊両チームとも途中作戦タイム（2分×各2回）を取ることができる。 ①　肯定側立論（4分） 立論の発生過程，重要性をもとに述べる。 ②　否定側質問（2分） 語句や資料について質問する。 ↓ ③　否定側立論（4分） ④　肯定側質問（2分） ↓ ⑤　否定側第1反駁（3分） 肯定側立論に対して反駁する。 ⑥　肯定側第1反駁（3分） 否定側立論と第1反駁に対し反駁する。	・適宜，ディベーターの発言内容，聴衆の態度，記録状況を確認し，聴衆・審判には立論や反駁の内容を把握，評価するために発言内容をフローシートに記入することを助言する。 ・反駁は相手側の考えを理解した上で不備な点を指摘し，自分たちの立論の正当性を主張するよう助言する。

↓ ⑦　否定側第２反駁（３分） 　　肯定側第１反駁に対し反駁する。 ⑧　肯定側第２反駁（３分） 　　否定側第２反駁に対し反駁する。 ＜アピールタイム（各１分）＞ 　審判はフローシート，ジャッジメントシートをもとに　判定を行う（５分） ・聴衆に挙手で判定をさせた後，審判が判定結果を発表する。	・判定は個人の意見でなく，ルールにのっとり公平に判定するように助言する。
３　まとめ ・審判，聴衆は講評を行う。 ・教員はフローシートに従って判定理由を解説し，講評を行う。	［思］聴衆はディベーターの証拠資料や意見をに基づいて，フローシートを作成して公正に判定を行っている。（フローシート）

(4) 授業の分析と考察

ア　知識を習得するための学習活動について

(ｱ) リサーチシートの作成について

リサーチシートの作成は班ごとで取り組んだため，実質的なリーダーの存在がスムーズな作成につながった。リーダーが存在する班はすぐにブレーンストーミングを行って意見をとりまとめ，立論の原案を作成し，肯定・否定の担当を決めて資料の収集を始めることができた。しかし，リーダー不在の班は全員が漠然と資料を探していて作業が遅れがちであった。そのような班には論題について改めて説明し，質疑応答を行った上で立論の例を提示することで，話合いの方向性を示した。このような形ですべての班で，ほぼ問題なく立論することができた。

リサーチシートの記入により立論の発生過程や深刻性が明確になるため，作成しながら内容を吟味することができた。生徒は，自分たちで判断して資料を選択し，立論を全員で検討して，より重要なものに差し替える場面も見られた。各班とも事前準備への取り組みは大変良好で，資料１からも分かるように生徒は満足感をもってこの学習を進め，知識の習得を図ることができたと考える。

資料１　リサーチシート作成後の生徒の感想

・チームで資料を集めたり意見を出し合ったりするのは楽しく，より深い学習をすることができた。 ・宗教や憲法など，今まで考えたこともなかったテーマに取り組めて有意義だった。

(ｲ) フローシートの記入について

初回のディベートは２時間をかけてフローシートの記入方法を詳しく指導したため，２回目以降はどの生徒も順調に記入することができた。生徒が記入したフローシートからは，しっかりとディベートの様子を記録しながら，自分の考えを記入している様子が分かる。作戦タイムには互いのフローシートを見せ合って確認し，聞き違いを修正したり，論題に対する自分達の意見やその時点でどちらが優勢かを話し合うなどディベートの様子を的確にとらえ，自分たちの考えを深め，知識の習得を図っていたと考えられる。資料２は，アフターディベートシートに記された生徒の意識であるが，自分たちの考え

について客観的にとらえたり，論題について興味をいだいている様子がうかがえる。

資料２　アフターディベートシートに記された生徒の意識

・ディベートを通して論題への理解が深まったり，自分の考えが変化していくのはとても新鮮で面白い体験だった。 ・現代社会の問題点が見えてきたような気がする。これからもさまざまな問題に興味をもって見ていきたい。

イ　習得した知識を活用する表現活用について

各自のフローシートを参考にアフターディベートシートには，各試合の講評（ディベーターへの講評・論題に対する意見），係の反省，あなたが選ぶ No.1 ディベーターとその推薦理由，ディベート学習全般についての感想を記入した。どの項目も，習得した知識に対してしっかりと理解し，自らの思考活動が加わらなければ記入できない内容であるが，ほとんどの生徒は自分の考えを十分に表現していた。まさに，習得した知識を活用していたと考えることができる。資料３は，生徒がアフターディベートシートに記入した学習に対する感想であるが，いずれも生徒の実感が込められており，高い満足感を得ている様子がうかがえる。

資料３　生徒がアフターディベートシートに記した学習に対する感想

・シートの記入により自分の学習への取り組みの評価や自分の考え方の変化の発見，論題への意見の再構築ができた。学習のまとめとして大変有効な手段であると感じた。 ・試合時はとても緊張して，終わってからも震えが止まらないほどだった。でも貴重な経験だった。 ・勝ち上がってきたチームの力量はすばらしく，決勝戦はとても見応えがあった。

(5) 授業研究の成果と課題

ア　成果

この授業を通して，生徒は自ら論題を多面的にとらえ，分析し，必要な情報を選択する能力を高めることができた。そして，リサーチシートの記入により，収集した情報を基に論理的に意見を組み立てることができ，知識の習得を図ることができた。考査結果からも，講義中心の授業よりも確実に知識の定着がなされたことがわかる。また，フローシートの記入により論理的な思考方法を身に付けていた。アフターディベートシートには，多くの生徒が「社会問題への興味関心が高まった」，「議論の楽しさを知った」，「問題をさまざまな角度から見るようになった」，「物事をより深く考えるようになった」などの感想をあげており，習得した知識を活用する楽しさに目覚めることができたように見える。

ディベート実施後の授業は，おとなしかった生徒が積極的に発言したり，鋭い質問が飛び交うなど大変活気あるものに変化してきている。同時に，他者の意見に傾聴し尊重する態度も養われ，公民的資質の涵養もなされたといえる。

イ　今後の課題

本実践からもディベート学習の有効性を検証することができたと考えるが，指導者レベルにおいては，依然共通理解が図られていない面が多く残っている。そのため，導入には難色を示されてしまうことも多いが，今後はその有効性の周知を図るとともに，年間指導計画におけるディベート学習の位置付けなども進めていきたいと考える。

【授業研究５】　小学校第６学年「３人の武将と全国統一」における習得した知識・技能を活用する学習指導の工夫

⑴ 研究のねらい

本単元では，キリスト教の伝来，織田・豊臣の天下統一，徳川が江戸幕府の基礎を築いたことについて調べ，戦国の世が統一されたことが分かることをねらいとしている。「キリスト教の伝来」についてはザビエルがキリスト教を伝えたことを取り上げて調べ，我が国にキリスト教が広まったことが分かるようにする。「全国統一」については，戦国大名の群雄割拠の状態から織田信長が天下統一に向けて行動を起こし，家来の豊臣秀吉が天下統一を果たして武士支配の社会の仕組みの基礎を築き，徳川家康が江戸幕府を開き全国統一を成し遂げたことを理解することである。

実態調査（表１）の質問項目１からは，社会科の授業においては33人の児童がめあてや課題を意識して授業に取り組んでいることが分かる。質問項目２，３，４からは，根拠となる自分の考えや思いを発表したり，友達とかかわり合って学習を進めたり，友達の意見を参考にして考えたりすることが苦手な傾向が見られる。その理由として，調べ学習において自分の考えをもつための知識・技能の習得が十分でないことや話合いの視点が明確でなかったことが考えられる。また，日頃の授業の様子からは，社会科が好きな児童は多いが，知識・技能の習得には個人差がある。

表１　社会科の授業に関する実態調査
（平成20年５月23日実施第６学年１組40人）

1　授業中，めあてや課題を意識して学習していますか	はい 13	やや 20	あまり 7	いいえ 0
2　考えたわけを友達や先生に伝えようとしていますか	はい 3	やや 19	あまり 13	いいえ 5
3　友達が考えた理由を聞こうとしていますか	はい 3	やや 13	あまり 18	いいえ 6
4　友達の考えが同じか違うかを知ろうとしていますか	はい 8	やや 22	あまり 5	いいえ 5

信長・秀吉・家康の３人の武将は，エピソードも多く，児童にとって資料を活用して追究しやすい人物であるが，調べて覚えるだけの深まりのない学習になりがちである。調べて覚えるだけの社会科学習では，児童の興味や学びの対象が広がらず，自分の考えをもち，お互いの考えを伝え合ったり，深めたりすることはできないと考える。

そこで，本単元では，まずワークシートを使って３人の武将について基礎・基本となる知識を習得させた上で，一人の武将を選択させる。その上で，単元を貫く学級全体の学習問題と児童一人一人の学習問題を設定し，追究させる。問題解決の場としては，自分の学習問題を新聞の見出しとし，新聞を書くための情報収集（既習事項の活用，資料活用）により知識を習得する。次に新聞作りで習得した知識をプレゼンテーション作りのための話合いで活用する。そして，新聞作りやプレゼンテーション作り等の活動で再構成した知識・技能を総合して新聞の社説に３人の武将から学んだことについて自分の考えを書く活動を行う。このようなスパイラルな学習活動を展開することで，習得した知識や技能を繰り返し活用することにつながり，本研究のねらいに迫ることができると考える。

⑵ ねらいに迫るための具体的な手立て

ア　知識・技能を習得するための学習活動

学習問題とは，児童に問いや疑問をもたせ，学習活動を方向付けるものである。調べ学習を進めていく上では,何のために調べ学習をしているかを見失わないために必要である。本単元では，単元全体を貫く学級全体の学習問題「３人の武将は，なぜ全国を統一しようと考えたのか。」と児童一人一人の学習問題の二つを設定し，常に問題意識をもって問題

解決的な学習を進めることで，知識・技能を習得させていく。

イ　習得した知識・技能を活用する表現活動

(ｱ)　プレゼンテーション作り

グループでのプレゼンテーション作りは，相手意識や問題意識を持って作ろうとするため，グループ内で説明の文章や資料の吟味がなされ，習得した知識の活用やさらなる調べ学習が行われる。ここでの話合い活動は，友達など他者とかかわり合うことで，自分なりの考えを深めることにつながる。さらに，ＩＣＴ機器を活用することは視覚に訴えるので，その効果を利用して共通点や相違点を明らかにしやすい利点がある。

(ｲ)　歴史新聞作り

ＩＣＴ機器を活用して３人の武将の業績をＰＲするプレゼンテーションを行い，学び合う楽しさを実感できるようにする。発表後の話合い活動では，話合いの視点を設け各グループからそれぞれの武将の立場で意見を出し合うことで，全国統一に果たした３人の武将に対する見方や考え方を深め，歴史新聞の社説を書かせ完成させる。

(3) 授業の実践

ア　単元名　３人の武将と全国統一

イ　目標

○　３人の武将による全国統一の様子に関心をもち，それぞれの武将の業績などを意欲的に調べようとする。【関心・意欲・態度】

○　戦国の世が次第に統一されていった様子を，３人の武将の行動や考え方，業績をもとに考えることができる。【思考・判断】

○　絵画資料や年表，地図，文章資料などの資料から，３人の武将の行動や考え方，業績を調べ，調べたことをノートや作品に工夫してまとめ，他の児童と伝え合うことができる。【技能・表現】

○　戦国の世が統一されていく様子や，キリスト教の伝来と国内への広まりの様子が分かる。【知識・理解】

ウ　学習計画及び評価規準（７時間取り扱い）

〔関〕・・・関心・意欲・態度　〔思〕・・・思考・判断　〔技〕・・・技能・表現　〔知〕・・・知識・理解

次	時	主な学習活動	活用の視点	評価規準（評価方法）
1	1	「長篠の戦い」の絵図資料から信長の戦い方の工夫や３人の武将の関係など読み取ったことを書き出し，発表し合う。		〔関〕織田・徳川連合軍と武田軍の武器や戦い方の違いが分かり，３人の武将への関心を高めている。（発表，ノート）
	2	「長篠の戦い」の絵図や年表から読み取ったことをもとに，３人の武将から一人を選び，学習問題を作り，調べる計画を立てる。	・資料から習得した知識（学習計画）	〔技〕資料から読み取ったことをもとに学習問題を作り，調べる計画を立てている。（ノート，ワークシート）
2	3 4	自分が選んだ武将の業績について情報を集め，新聞をつくる。	・武将の業績についての情報収集（新聞作り）	〔技〕自分が選んだ人物の行動や考え方，業績について多くの資料から詳しく調べている。（新聞，観察）
	5	新聞をもとに，選んだ武将ごとに発表をする。発表後に，同じ武将を選んだ児童でグループを作りどんな情報に注目したかについて話合いをする。	・新聞作りから習得した知識（発表，表現）	〔思〕自分の考えを大切にしつつ，他の児童の考えを取り入れて，よりよい考えを構築しようとしている。（観察，発表）
	6	話合いをもとに，３人の武将についてグループごとに工夫してプレゼンテーションをつくる。	・発表，話合いから習得した知識（知識の再構成）	〔技〕グループで話合いをして，聞き手を意識したプレゼンテーションをつくろうとしている。（作品，観察）
3	7 本時	３人の武将についてのプレゼンテーションを行い，全国統一に果たした役割について話合いを活用し，新聞の社説を完成させる。	・これまでの学び（比較，関連付け，総合） ・ＩＣＴの技能	〔知〕プレゼンテーションをもとに，３人の武将が全国統一に果たした役割を理解しようとしている。（話合い，観察）

エ　本時の指導

(ｱ) 目標

プレゼンテーションを活用して当時の人々の願いや心情を考えながら話し合い，３人の武将が全国統一に果たした役割を理解し，歴史新聞の社説に表すことができる。

(ｲ) 活用の視点

○　プレゼンテーションや話合いで習得した知識を活用して，歴史新聞の社説を記述する。

(ｳ) 準備・資料

話合いワークシート，自己評価表

(ｴ) 展　開　　※　配慮を要する児童

学 習 活 動・内容	指導上の留意点及び評価
1　単元の学習問題を確認する。 ３人の武将は，なぜ全国を統一しようと考えたのか。	・　単元のまとめとして，単元を通しての学習問題を確認することで，「３人の武将の関係」や「全国統一に果たした役割」を常に意識させ，自分なりの追究に結び付ける。
2　本時の学習課題を確認する。 プレゼンテーションをもとに話合い，３人の武将が全国統一に果たしたそれぞれの役割を理解し，新聞の社説を完成させよう。	・　単元を通しての学習問題，各自が設定し追究してきた学習問題，本時の学習課題を確認したうえで授業に取り組めるようにする。
3　３人の武将の業績についてプレゼンテーションをする。 《信長の例》 ・延暦寺を焼く　　・室町幕府を滅ぼす ・鉄砲を使って武田氏を長篠の戦いで破る ・キリスト教を保護する ・安土城をつくり，商工業を保護する 《秀吉の例》 ・検地や刀狩りを全国で行う・身分の区別を図る ・大阪城をつくる　・全国統一をはたす 《家康の例》 ・関ヶ原の戦いに勝利し江戸幕府を開く ・豊臣氏を滅ぼす　・戦国時代を終わらせる	・　情報交換の場であることを確認する。 ・　グループの代表者が業績を強く主張することでその人物の業績への理解を深めさせる。 ・　プレゼンテーションでは，他のグループの児童に自分たちが調べた武将の業績をわかりやすく理解してもらえるようＩＣＴ機器を活用して，表現を工夫させる。 ・　後半の話合いに結び付くようポイントを絞った発表にする。 ※　自分たちの発表だけでなく，他のグループの発表をよく聞いて，自分の考えと比較したり，関連付けたりする。必要な場合は，メモをとるよう個別指導をする。
4　３人の武将の業績が，どのように全国統一と関連しているかを話合い，３人の武将の果たした役割を考え理解する。 ○話合いの視点 ①当時の人々の願いは，どんなことだったのか。 ・戦乱の世の中（戦国時代）を終わらせ，平和な世の中を築いてほしい。 ②３人の武将は，その願いにどのようにこたえたのか。 ・古い社会の仕組みをこわした信長 ・新しい時代の基礎をつくった秀吉 ・基礎を確立し，長続きさせた家康 ③３人の武将はそれぞれどう影響し合っていたのか。 ・３人で分業して，天下統一した	・　学級全体で話合いができるよう，教師が話合いの視点を提示する。 ・　話合いの中では，天下もちのうたやホトトギスのうたを参考に，当時の人々はどのように３人の武将を見ていたかという視点も持たせる。 ・　各グループのプレゼンテーションと話合いの視点①②③を関連付けて話し合うことで，３人の武将に対する見方や考え方を深める場とする。 ・　単元を通しての学習問題，各自が設定し追究してきた学習問題が，どの事象と関連しているかを考え，一人一人が自分の学習を吟味したり，振り返ったりするきっかけになるよう助言する。 ・　３人の武将を表す「こわす・つくる・つづかせる」キーワードを元に，３人の武将が世の中を治めていった様子を理解できるようにする。 〔知〕　話合いを通して，３人の武将が全国統一に果たしたそれぞれの役割を理解している。　（話合い，観察）
5　学習のまとめと振り返りをする。 ・本時の学習を振り返り，自分の言葉で表現し，新聞の社説を完成させる。 ・自己評価を記入する。	・　学習のまとめとして，戦国時代であっても人々が相互に様々なかかわりをもちながら生活していることを理解し，それに対する自分の思いや願いなどを自分の言葉で書かせる。 ※　記入に戸惑っている児童については，自分の選んだ武将の役目や当時の人々の思いを学習の振り返りとして書かせる。 ・　自己評価カードを記入し，単元全体の学習活動の振り返る。

(4) 授業の分析と考察

ア　知識・技能を習得するための学習活動に

問題解決的な学習を成功させるには，学習をもたせることが大切である。単元を通した国を統一しようと考えたのか」は，毎回の授ネット検索だけに頼ってしまったり，何のたまったりさせないために役立った。また，フ話合い活動でも，意識して学習に取り組めた。単元全体を通して，児童の学習問題の追究の方向性を示し，問題意識を持続させることができた。

個人の学習問題は，図１の学習問題づくりのヒントを基に，一人一人が問題意識をもって追究するようにつくった。（信長25人，秀吉７人，家康８人）　一人一人の学習問題からは，「なぜ室町幕府を滅ぼしたのか。それによって世の中は良くなったのか」，「刀狩りと検地は本当に農民のためになったのか」，「家康は，関ヶ原で石田三成と戦うしか方法はなかったのか」，「なぜ，家康は豊臣氏を滅ぼしたのか（千姫を秀吉の子ども秀頼と結婚させたにもかかわらず）」などから，これまでに習得された知識や技能の活用と児童の追究への問題意識が分かる。

図２の学習の振り返りにもあるように「秀吉はなぜ幕府が開けなかったか調べてみたい」や「３人の武将は，信長，秀吉，家康でなければいけなかったのか」など，新たな疑問や問題意識をもつことがで

もち続け問題解決に取り組めたことは，知識

イ　習得した知識・技能を活用する表現活動に

(ｱ)　プレゼンテーション作りについて

プレゼンテーション作りは，他のグループの児童に自分たちが調べた武将の業績を分かりやすく理解してもらえるよう，ＩＣＴ機器を活用して表現させた。児童が調べた情報を吟味したり調べ直したりして，聞き手を意識したプレゼンテーションを作ることとし，全体で５枚以内，武将の業績は三つまでと条件を付けた。図３は，秀吉について調べたグループのプレゼンテーシ

図１　学習問題作りのヒント

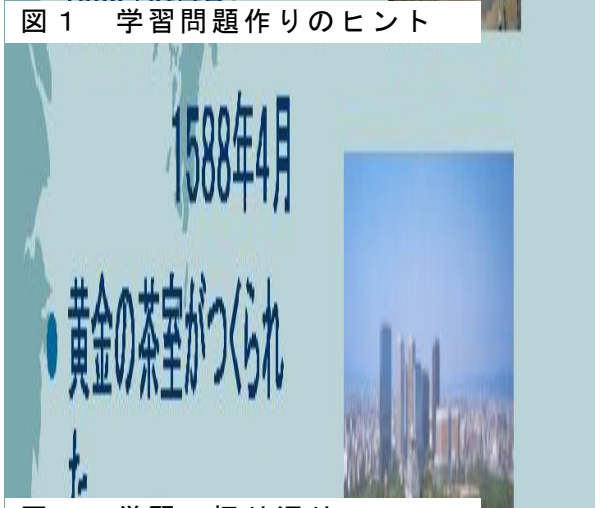


図２　学習の振り返り

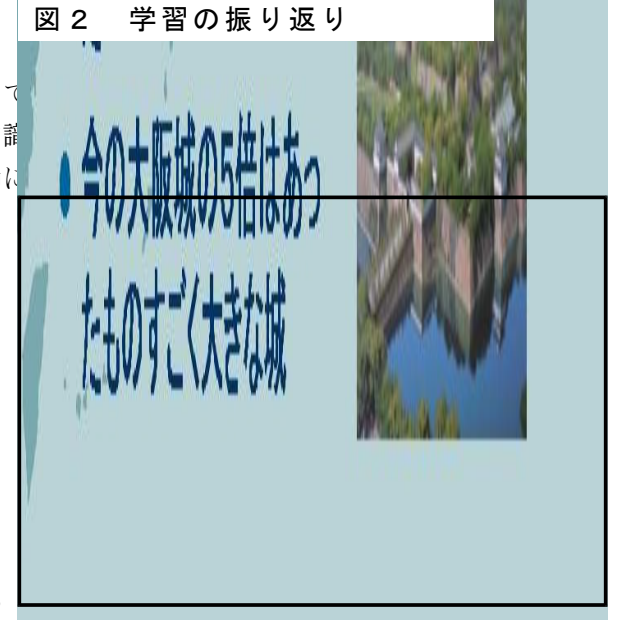


図３　児童が作ったプレゼンテーション

ョンである。一人一人が大阪城について調べた情報をグループ内の話合いで整理し，説明文の表現を考えた。次に秀吉の力の大きさを他のグループに理解してもらうため，現在の大阪城の写真を見つけ当時の大阪城の絵と比較した。背景には，日本から朝鮮半島，中国が写っているデザインを活用した。他のグループでも同様の工夫が見られ，数ある武将の業績の中から何を取り上げ，どのように説明すれば他のグループの人たちが理解してくれるか検討がなされた。また，どの資料や写真を使えば効果が得られるかなど技能面での話合いもされた。１枚のプレゼンに写真と文章をうまく組み合わせるため，再度調べ直しをする児童が見られた。習得した知識や技能を活用したプレゼンテーション作りになった。

(ｲ)　歴史新聞作りについて

自分の学習問題を新聞の見出しとし，自分の選んだ武将の業績について情報収集を行って歴史新聞を作った。歴史新聞の社説には，自分がこの学習を通して３人の武将から学んだことを必ず記入するようにした。ＩＣＴ機器を活用し，３人の武将についてそれぞれのグループがプレゼンテーションを行った。その後，プレゼンテーションをもとに３人の武将の業績が，どのように全国統一と関連しているかを話し合った。話合いの視点として，①当時の人々の願いは，どんなことだったのか②３人の武将は，その願いにどのようにこたえたのか③３人の武将はそれぞれどう影響し合っていたのかを設定した。話合いでは，「私は」，「私にとって」，「ぼくにとって」と言う発言が多く聞かれた。図４の歴史新聞の社説の傍線部分のように自分の言葉による表現が増えたことは，習得した知識が活用されたといえる。また，社説欄に60字の文字制限を設けたことも自分の考えが短い文で再構成され，知識の活用に結び付いた。

図４　歴史新聞社説

(5) **授業研究の成果と課題**

ア　成果

○　単元を通した学級全体の学習問題と一人一人の学習問題を設定したことで，児童にとって学習の方向性と問題意識をもたせることができ，自分なりの課題追究ができる児童が増え，知識の習得につながった。

○　プレゼンテーション作りは，写真と文章をうまく組み合わせ，同時に分かりやすく表現できるようにするため，再度調べ直しをする児童が見られるようになり知識・技能の活用に結び付いた。

○　ＩＣＴ機器を活用したプレゼンテーションは，話合い活動が活発になり自分の考えを深める効果があった。

イ　今後の課題

○　調べ，考え，理解し，相手に伝わる表現をする場面の設定を，普段の授業の中に位置付けていくよう検討していきたい。

【授業研究６】　　中学校第３学年公民的分野「人権と共生社会」における習得した知識を活用する学習指導の工夫

(1) 授業研究のねらい

本単元は，人権にかかわる問題について，日本国憲法の基本原理の一つである「基本的人権の尊重」が，実際の社会の中でどのように生かされ，人権にかかわる一つ一つの事実が，すべて法的な根拠のもとに成り立っていることに気付くことをねらいとしている。しかし，実際の社会では，様々な差別問題が国内的にも国際的にも存在することは事実であり，いまだに根本的な解決を見ていない。人権にかかわる諸問題を解決するためには，単なる事実認識にとどまることなく，行政レベル・民間レベルにおいて，さまざまな人々が粘り強く努力を続けていることに目を向けることが必要であり，何よりも社会の形成者である生徒自身が，よりよい社会にするためには何が必要で，何を実践していかなければならないのかについて気付くことが重要である。さらには，習得した知識を活用して自分の社会観を形成し，将来，実社会の場で自分なりに活用することが最終的なねらいとなる。

表１の実態調査から，社会科の学習において調べること，作業すること，まとめることなどに熱心に取り組むことができる一方で，社会的事象に対して，既習の知識や生活経験を活用して自分の社会観を形成し，それを思考・表現する力は，十分に育っているとはいえない。そこで本単元では，「調べた事実からより多くの問題点や課題を発見し，その知識を活用して考え，表現する」という学習過程を多く経験させることにより，社会的な見方や考え方を身に付けられるようにしていく。また，ハンセン病を含めた人権にかかわる諸問題については，普段の生活の中で関心をもつことは少ない。

表１　社会科学習に関する実態調査
（平成20．７．７実施　第３学年２組 21人）

質問項目	結　　果（人）
１　社会科の学習で力を入れて取り組んでいることは何ですか。	資料などから事実を調べること12 分かったことをノートなどにまとめること10 話合いで自分の考えを述べること５ 知識や経験を活用して自分の考えを導き出すこと２ （複数回答）
２　生活の中で，人権問題について意識していますか。	常に意識している２　時々意識している４ あまり意識していない13　全く意識していない２
３　ハンセン病について知っていますか。	よく知っている０　部分的に知っている２ ほとんど知らない９　全く知らない10

本単元では，人権に対する生徒の低い意識を，どのように変えていくかが学習の柱となる。「差別問題＝解決すべきこと」と，短絡的に結び付けるのではなく，長い年月をかけても解決することが困難であることの原因はどこにあるのかについて，ねらいをもった調べ学習や話合い活動を通して迫っていく。また，追究活動が最後まで持続できるように，単元導入部において問題意識を十分に醸成させ，それを追究の原動力としたい。それらの活動の中で，現実の社会における真の共生社会の在り方を問いかけ，生徒自身の人権に対する見方や考え方が深まるようにしたい。具体的な学習活動としては，仮説を立てそれを検証する，いわゆる仮説検証型の活動を行いながら，調べ直しをしたり，内部情報を蓄積させたりして，より自分たちの考えを総合できるようにしていく。その中で，習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用して考え，その考えを活用して表現することが繰り返される仮説検証型の学習活動により，習得した知識・技能を活用し思考・表現する学習指導が展開されると考える。

(2) ねらいに迫るための具体的な手立て

ア　知識を習得するための学習活動

(ｱ)　問題意識を醸成するための工夫

導入部で，現実の社会においてハンセン病により実際に差別されてきた人物のインタビューテープを聞かせ，問題意識を高めることから単元に入る。また，学習テーマに対して，イメージマップを作成し，初期段階での考えをもつ。さらに，単元を通して，問題意識の変容を意識しながら追究活動をすすめ，単元の最後にゲストティーチャー（以下ＧＴ）を交えて，話合い活動をすることで問題意識が最後まで持続できるようにする。

(ｲ)　仮説検証型の学習を通して，調べること・考えること・表現することの一体化を図るための工夫

本活動では，「つかむ」，「調べる」，「まとめる」，「ひろげる」というような問題解決的な学習の一連の学習過程をとらない。ここでは，仮説をいかに検証していくかに焦点をあてることで，社会的事実を発見し，それを自分たちで意味の分析を行い，自分たちの考えを再構成するという学習を常に行えるようにする。このことで，調べること・考えること・表現することが小集団の中で，日常的に繰り返し行われるようになると考える。

イ　習得した知識を活用する表現活動

生徒の実態分析から本研究では，学習問題ごとに小集団（プロジェクトと位置付ける）をつくり，その中で集団での話合いを繰り返すことによって表現への抵抗感をなくすようにする。そのことで，時間をかけて練り合いができ，自分の問題意識や主張がその集団の考えとして反映され，集団内外の他の人とのかかわり合いを通して，一人一人が根拠に裏付けられた自信のある考えを構築できると考える。また，全体の話合い活動の場では，教師が一人一人の学習状況（調べて分かった事実・資料を活用して考えたことなど）を事前に把握し，意図的な指名によりそれぞれの考えを効果的に活用できるようにする。

(3) 授業の実践

ア　単元名　人権と共生社会

イ　目標

○　共生社会における人権問題を，基本的人権を中心とした人間の尊重の立場で考えようとする。【関心・意欲・態度】

○　共生社会において，各種の人権問題を人間尊重の立場から考察することができる。【思考・判断】

○　基本的人権における各権利が，日本国憲法で保障されており，その意義や過程について習得した知識や技能を活用してまとめたり，説明したりすることができる。【技能・表現】

○　基本的人権の理念は，現代の社会生活における人間の生き方の指針となると考えられることについて理解し，その知識を身に付けることができる。【知識・理解】

ウ　学習計画及び評価規準（７時間取り扱い）

〔関〕・・・関心・意欲・態度　〔思〕・・・思考・判断　〔技〕・・・技能・表現　〔知〕・・・知識・理解

次	時	主な学習活動	活用の視点	評価規準（評価方法）
1	1 ② 本時	1　人権侵害の事実について知り，問題意識をもつ。 (1) ハンセン病について，パンフレットなどの資料をもとに病状や患者が歴史上差別の対象となってきた事実を調べる。 (2) ハンセン病元患者の方のインタビューテープを聴き，人権を侵害され	資料から習得した知識（問題意識）	〔関〕ハンセン病の事例を通して，差別問題にかかわる課題を明らかにし，本当の意味での共生

		てきた事実を知るとともに，被差別者の心情について話し合う。 (3) テープを聴いた後，自分が考える共生社会とはどのようなものなのかを考える。		社会を構築するにはどのようにすればよいか考えようとしている。（思考・行動観察・ワークシート）
	3	1　共生社会とはどのような社会を指すものなのか考える。 (1) 自分が考える共生社会についてイメージマップに表す。 (2) 話合いをもとに自分の考えを書く。 2　共生社会と人権との関係についてについて教科書や資料集を概観する。	生活経験（共生社会に対する自分の考え）	〔思〕共生社会に対して，自分なりの考えや実現に向けての課題をもっている。（発表・ノート）
2	4	1　「真の共生社会を実現するためには」のテーマを解決するための仮説を立てる。 (1)　仮説（学習問題）を設定する。 (2)　仮説検証の計画を立てる。	学び方（学習問題づくり・検証計画）	〔思〕今まで得た情報や知識を活用して，仮の仮説を立てている。（ノート・話合い）
	5 ・ 6	1　様々な資料を活用し，仮説を検証する。 (1) インターネットを中心に，自分たちの仮説が社会的事象と比較してどうなのか調べる。 (2) 仮説と調べたこととを結びつけ，自分（自分たちの）考えを導き出す。 (3) 分かったことと分からないことを整理して，不十分なことを調べ直す。 2　検証結果から，仮説に対して結論を導き出す。	学び方（情報検索） 習得した知識（検証，調べ直し）	〔技〕様々な資料を活用して仮説を検証し，自分たちの仮説に対して一応の結論を導き出している。（ノート・観察）
3	7	1　まとめの発表会をする。 (1) 各プロジェクトからの検証結果の発表をする。 (2) それぞれの発表後に内容について話し合う。疑問点はＧＴに質問し，明らかにする。 (3) 「真の共生社会」を実現するためには，現実的にどのような問題点があり，解決方法は何かを，ＧＴを交えて話し合う。	これまでの学び（総合，結論，新たな課題）	〔思〕発表や話合いを通して，共生社会に対する自分なりの見方や考え方を構築している。 （発表・ノート）

エ　本時の指導

（ア）目　標

ハンセン病の事例を通して，差別問題にかかわる課題を明らかにし，本当の意味での共生社会を構築するにはどのようにすればよいか考えようとする。

（イ）活用の視点

○　基本的人権に関する既習の知識（個人の尊重と平等権・自由権・社会権・基本的人権を守るための権利）を使って人権侵害を分析する。

○　複数の資料（ハンセン病に関する事実）を結び付けながら調べる。

○　友達の考えにつなげて自分の考えを構築する。

（ウ）準備・資料

ハンセン病に関する資料，ワークシート，事前調べで使用したワークシート及び資料

（エ）展開　　※　配慮を要する生徒

学習活動・内容	指導上の留意点及び評価
1　単元の学習問題を確認する。 「真の共生社会」を実現するためには，現実的にどのような問題点があり，その解決方法は何だろうか。 2　本時の学習課題について確認する。 ―人権をおかされたハンセン病患者― 真の共生社会をつくっていくためには，どのような努力が必要だろうか。」	・　差別などの問題が根強く残る現代社会において，本当の意味での共生社会を実現するためには，問題点を明らかにしその解決方法を探っていくことが大切であることを確認する。 ・　前時に学習したハンセン病患者に対する人権侵害は，未だに解決していない問題であることを確認し，自分としてどうこのことに向き合っていけばよいかを考えることが学習のねらいであることを伝える。
3　ハンセン病に関連する事実概要について発表し，人権侵害にかかわる課題を明らかにする。	・　ハンセン病に対する正しい事実認識（感染力や発現が弱い，現代の医学で治癒可能，強制隔離政策が行われてきたことなど）がもてるように，複数の資料を活用して調べた生徒を意図的に指名し，情報の共有化を図る。 ・　どのような人権侵害があったのかを，憲法にある内容を根

4　元ハンセン病患者のインタビューテープの内容を聞き，どのような人権侵害があったのか，また，本当の意味での共生社会をつくり上げていくにはどのような努力が必要かについて考える。	拠として具体的に述べられるように助言する。 ・　憲法と関連付けられない生徒には，既習の知識である基本的人権のどの部分にあたるか考えるよう助言する。 ・　実際の人物の思いや願いを，それまでの自分の人権に対するとらえ方に照らして，自分なりに共生社会の在り方について考えられるようにする。 ・　プライバシーに関する内容には細心の注意を払うとともに，政治的には深入りしないようにする。 ※　差別をなくすためのキーワードを助言し，現実社会の中で，自分自身ができることを具体的に考えられるようにする。 〔関〕ハンセン病の事例を通して，差別問題にかかわる課題を明らかにし，本当の意味での共生社会を構築するにはどのようにすればよいか考えている。（思考・行動観察・ワークシート）
5　学習を振り返って自己評価をし，次時の見通しをもつ。	・　学習前と後では，どのような点で自分の考えに変容が見られたかという観点で評価できるようにする。

(4)　授業の分析と考察

ア　知識を習得するための学習活動について

(ｱ)　問題意識を醸成するための工夫について

単元の導入部では，生徒はハンセン病について予備調べを行った。最初は，耳慣れないハンセン病にとまどいが見られた生徒も，複数の資料を活用して調べを進める中で，理不尽な理由で歴史上周囲から偏見をもたれ，差別されてきた事実をつきとめていった。次に，生徒は，元ハンセン病患者のインタビューテープを聞き，資料では到底うかがい知ることのできない被差別者の熱い思いの核心にふれた。感じ方は様々であるが，自分たちの知らない世界に，差別や偏見によって苦しめられてきた人々が実際に存在したことを実感し，衝撃を覚えていたようである。また同時に，差別や人権についてそれぞれに問題意識が芽生えたことは確かである。次時に作成したイメージマップ（図１）では，予想通り，ほとんどの生徒に「差別」,「平等」の記述が見られた。一方で，既習の学習内容を活用して世界規模で幅広くとらえている生徒も数人いた。

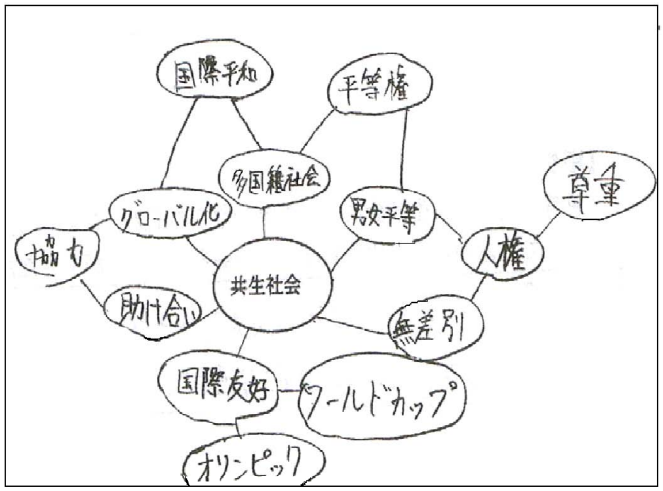


図１　イメージマップ

(ｲ)　仮説検証型の学習を通して，調べること・考えること・表現することの一体化を図るための工夫について

調べる手段としては，効率よく情報収集ができることから，主にインターネットを活用して調べ学習を行った。「調べて分かった事実」「関連する人権」「それに対する自分たちの考え」をセットにして調べ活動をすることにより，収集した情報が仮説とどのような点で整合性があるのか，常に話し合い，考えを整理しながら検証をすすめることができた。また，最後には，一応の結論を出さなければならず，考えの根拠を示すためにより広い視野から情報収集をしたり，考えを導こうとしたりしていた。グループによっては，この時点で自分たちの設定した仮説が現実的に実施されており，仮説自体を変更

する必要性が生まれている。一方で，収集した事実から自分たちの考えに確信をもち，自信と問題意識を深め，さらに検証の幅を広げていったグループもあった。仮説としては，「障害者にとって暮らしやすいまちづくりをしているところを優遇すれば，他の県や市でも同じような取り組みが増えるであろう」のような例が見られた。

イ　習得した知識を活用する表現活動について

小集団での話合い活動では，収集した情報が仮説とどのような点で整合性があるのか，常に話し合い，考えを整理しながら検証をすすめることができた。また，話合い活動を通して，ほとんどのグループにおいて初期段階で把握した問題意識の変容が見られた。

全体の場での話合い活動では，表２のように，事前に生徒の考えを活用し，それに基づいてあらかじめ指名順の構想を練った。そのことにより，話合いの筋道が明確になり，テーマの核心部分に徐々に迫っていくことができた。また，一人一人の発表内容に意味と存在感をもたせることもできた。

表２　話合い活動で取り上げられた生徒の考え

資料１ハンセン病の紹介　資料２ハンセン病の歴史　資料３ハンセン病に関する主な出来事　資料４現代における問題

氏　名	活用した資料	調べて分かった事実・事実から考えたこと	資料を活用して自分が考えたこと
	３，４	元ハンセン病患者だからといって，施設の入所を拒否した問題が起きてしまい。いまだにハンセン病に対する理解が足りないことや，差別や偏見が根強いものだということを実感させられた。	**まれにしか感染しない病気なのに，誤った考えが原因で国がハンセン病に対して強い差別などを用いてしまったことが一番許せない。** 指名１
	１，２	ハンセン病は，体の末梢神経が麻痺し，顔や手足が変形することなどから差別が起きた。戦争が近づくと根こそぎ収容されてしまうことがわかった。そのときに**発病するとその一家は仲間はずれになったこと**がわかった。	過去に強制隔離なんてするからうつるというイメージが今も残っていて，差別が起こる。 指名２
	２，４	ハンセン病は，「怖い病気」としてみんなが思ってしまったから，現在でも差別されている。最近では，元ハンセン病の人を宿泊拒否をするなど，今なお継続している。**⇒厳しいきまりや法律をつくるべき**	**厳しい法律つくってハンセン病を差別から守る。ハンセン病のことを，みんながもっと理解すべき。生活に不自由がある場合，募金活動などで支援をしてあげるべき。** 指名４
	１，２，３	**１９３１年ごろ，ある医師が不治の病ではないといっているのに彼の主張は認められず，強制隔離は続いた。**	今はもう**ハンセン病に関しての差別とかはなくなった**が，正直なところ時間がかかりすぎた。 指名３

(4) 授業研究の成果と課題

ア　成果

○　単元導入部で，予備調べを行ったり，被差別者の生の声を聞かせたりと，時間をかけて丹念に問題意識を高めていったことにより，現代社会における共生社会に対しての課題や解決方法を具体的に想起することができ，単元を通して追究の原動力となった。

○　仮説・検証型の追究活動を展開したことにより，事実を調べて単に考えを導くだけの調べ学習から，「仮説を証明するために情報収集する」（調べる），「調べて分かった事実を仮説と照らし合わせて意味付ける」（考える），それが「本当に正しいかどうかを話し合う」（表現），その結果「不十分な点を調べ直す」（調べる）・・・の一連の流れの中で，調べること，考えること，表現することの一体化を図りながら主体的に追究活動を進め，考えの深化を見取ることができた。

イ　今後の課題

○　習得した知識・技能を活用して思考・表現する力を高めるための，話合い活動を重視したより効果的な単元構成の在り方について研究する。

【授業研究７】　　高等学校第３学年地理Ａ「人間活動を知る身近な情報」における習得した知識・技能を活用する学習指導の工夫

(1) 研究のねらい

本単元は，現代社会の人間行動の多様化に関する課題を設定し，それらを地理的環境と関連付けて多面的・多角的に追究するとともに，身近な情報を地理情報として活用して現代世界の人間行動の多様化に関する地域性や動向をとらえる視点や方法を身に付けることがねらいである。そこで，本実践においては，身近な地理情報を収集して，作業的な学習を通して習得した知識・技能を活用して，現代世界の人間行動の多様化に関する地域性や動向をとらえさせることとした。

本校の位置する小美玉市においては中規模の宅地開発が数カ所で進められているが，それが地域の特色のひとつとなっている。今回はこれらの宅地開発に焦点を当て，開発が進む理由や災害発生の可能性などについて地形の特色，人間行動の特徴などの視点から課題に迫る。その際，新聞の折り込み広告の地図や地形図，ハザードマップなどを教材化することによって，読図などの地理的技能や，習得した知識を活用して住宅地として適切な場所の選定を行う授業を展開する。

表１　地理の授業に対する生徒の実態（人）

(平成20.4.24実施　３年理数コース28人)

	質問項目	回　答
1	地図を見るのは好きですか。	好き（5）　どちらかというと好き（13） どちらかというと嫌い（7）　嫌い（3）
2	地図を見て，そこの風景や様子を想像することがありますか。	よくしている（2）　時々する（10） ほとんどしない（12）　まったくしない（4）
3	地図記号は分かりますか。	ほとんど分かる（1）　だいたい分かる（9） 半分程度分かる（11）　ほとんど分からない（5）
4	新聞はよく読みますか。	よく読む（4）　時々読む（7） たまに読む（14）　ほとんど読まない（3）
5	茨城県で発生した災害を答えてください。	笠間市の道路斜面の土砂崩れ（1） 那珂川の氾濫（1）　無答（26）

表１は，本単元学習前の生徒の地理の授業に対する生徒の実態である。授業を実施する３年２組は普通科理数コースであり，半数以上が理系の４年生大学に進学を希望しているが，入試科目として「地理Ａ」または「地理Ｂ」を選択する生徒は数人である。アンケートの結果からも，地図に対して興味・関心をもっている生徒は半数程度であり，社会情勢に関心をもっている生徒はさらに少なくなる。

そこで，授業においては生徒が興味・関心をもって授業に取り組めるように，実感がもてる身近な事例をシュミレーションする活動を取り入れることとした。具体的には，自分が家を建てることを想定しながら，地形図から地理的・社会的環境や安全面について読図させたり，その他の様々な地理的情報を収集し調査させるなどの学習を行う。その際，位置の把握や地形図の読図を分かりやすく指導するために，国土交通省国土地理院のホームページにある地図閲覧サービスの地形図をプロジェクターを用いてホワイトボードに映すこととした。

このように様々な地図を通して地理情報を収集し，話合いなどを通して習得した知識とすることでその活用を図り，これらの学習が自分の生活に役立つことを実感させることで，ね

らいに迫りたい。

(2) ねらいに迫るための具体的な手立て

ア　知識・技能を習得するための学習活動

本単元では，宅地開発に視点を当て，どのような場所で進んでいるかを生徒に考察させる。はじめに，宅地の広告を配付し位置を確認させた後，地形図を配付し，開発されている場所の地形，地価，駅からの距離，道路，公共施設，住宅地としての環境などを確認させる。この学習を通して，生徒には地図やその他の資料から収集した情報や，宅地開発が進んでいる地域の特色を読み取る技能を身に付けさせたい。また，住宅建設が進まない場所（河川沿い等）についてはその理由を考えさせ，人間生活が災害と深い関係にあることを考えさせる。このことを通して，生徒には住宅開発という人間行動に関して地域性や動向があることをつかませる。

イ　習得した知識・技能を活用する表現活動

地形図や土地利用図の読み取りを通して習得した地理的な知識・技能を基にして，生徒にはハザードマップを読図させ，自分の住まいを建築する地域の選択というシミュレーションを行う。シミュレーションにおいては，地形や交通など様々な立地条件を参考としながらグループで話合いを行い，生徒同士が考えを練り上げる場を設定した。話合いの後はグループごとに発表を行い，学級全体で発表内容について共有することを目指した。

これらの地域で発生が予想される自然災害について考えさせることで，生徒は地理的な知識を総合的に生かして，自然災害から身の安全や住宅を守るための工夫を考えさせ，実生活に生かすことができるようにさせたい。

なお，授業においては読図の技能を高めるために，国土交通省国土地理院の「地図閲覧サービス」の1/25000 地形図をプロジェクターで教室前面のホワイトボードに映すこととした。地図中に印を付けたり，説明したい範囲に色付きのマーカーで線を引くなどして発表することで，生徒の地図活用の技能を高めるとともに，学習内容の共有化も図る工夫を行った。

(3) 授業の実践

ア　単元名　人間活動を知る身近な情報

イ　目標

○　地図・自然災害について関心と問題意識を高め，それらを地理的環境と関連付けて追究する学習に意欲的に取り組み，身近な地理情報を収集しようとする態度を養う。
【関心・意欲・態度】

○　地形図や土地条件図などの地理情報を活用して現代世界の人間行動の多様化に関する地域性や動向をとらえる視点や方法を考察させる。【思考・判断】

○　地形図の読図を通して学習に役立つ情報を適切に選択，活用することを通してそれらを地理的に追究する技能を身に付けさせる。【技能・表現】

○　平地及び台地の地形の特色およびそこで発生の考えられる災害例を理解するとともに，身近な情報を地理情報として活用してそれらをとらえる視点や方法を理解し，知識を身に付けさせる。【知識・理解】

ウ　学習計画及び評価規準（３時間取り扱い）

〔関〕・・・関心・意欲・態度　〔思〕・・・思考・判断　〔技〕・・・技能・表現　〔知〕・・・知識・理解

時	主な学習活動	活用の視点	評価規準（評価方法）
1	1　宅地開発が進んでいる地域の情報を収集し，地形図に表す。 2　なぜこの地域で宅地開発が進んでいるのかについて話し合う。	略地図（読図） 地形図（読図）	〔関〕地形図より，宅地開発が行われている場所の地形的な特色をまとめようとしている。（地形図，話合い） 〔技〕概念図（広告の略図）を読み取り，地形図に位置を示している。（地形図）
2	1　平地及び台地の特色を理解する。 2　現在の地形図と昭和40年の地形図を比較し，開発が進んだ様子を考察する。	既習事項（記入） 地形図（読図）	〔知〕平地及び台地の地理用語，そこで発生が予想される自然災害を理解している。（ノート） 〔思〕新旧の地形図を比較し，40年間で開発された場所を示し，その土地が変化した理由を考えている。（観察）
3 本時	1 水戸地区の地形図をもとに，住宅地を開発するのに適切な場所を考え，発表する。 2 水戸市の土地条件図を見て，自分たちが宅地開発地として選んだ場所が，被害が想定される地域と重なっていないかについて考える。	習得した知識（発表）	〔技〕水戸市域の地形図より，宅地開発を進めるのに適切と考えられる場所を，習得した知識をもとに考え，位置を示している。（話合い，観察） 〔思〕ハザードマップや地形図より，その地域の危険な場所を読み取り，自分たちの予想について検証している。（発表，話合い）

エ　本時の指導

(ｱ) 本時の目標

○　水戸市域の地形図より，宅地開発を進めるのに適切と考えられる場所を，習得した知識をもとに考え，位置を発表させる。

○　ハザードマップや地形図より，その地域の危険な場所を読み取り，自分たちの予想について考察させる。

(ｲ) 活用の視点

○　地形図から読み取った地理情報を活用して，災害が予想される場所を考え，住宅開発に適切な場所を選地している。

○　ハザードマップや土地条件図の読み取りから得た情報を活用して，グループで話し合った予想を検証している。

(ｳ) 準備・資料

地形図，ハザードマップ，プロジェクター，パソコン

(ｴ) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点及び評価
1 導入 ○水戸周辺で住宅地を開発するとしたらどこを選ぶか予想させる。	・自分たちにとって住みやすい環境について考察させる。
2 学習課題に対する話合いと発表 住宅地はどこに造成したらよいか。 ○水戸地区で住宅開発を行う場合どこを候補地とするかグループで話し合う。 ・地理情報(地形,駅からの距離,道路等) ・人間行動の特徴 ○話合いの結果をグループで発表する。 ・すべての生徒が，各班の発表内容を共有化できるように，ホワイトボードに映された地図を使って位置を示し，選定理由を説明する。	・１グループは，４～５人とし，すべての生徒が話合いに参加できるように編成する。 ・習得した知識（地理情報・人間行動の特徴）は必ず踏まえるよう助言する。 ・発表に当たっては，必ず根拠を示すよう助言する。 ・他の生徒の意見を聞いて，人によって選地には優先順位に違いがあることを気付かせる。 〔技〕水戸市域の地形図より，宅地開発を進めるのに適切と考えられる場所を人々の行動，自然災害などの習得した知識を基に考え，位置を示している。 （話合い，観察）
3 ハザードマップによる検証 ○ハザードマップにグループが決定した場所を重ねて，安全上問題がないかについて検討する。 ・ハザードマップ上にグループで選択した住宅建設地を記入し，災害の危険性について考察する。	・生徒の気付かない危険箇所（台地の端の急斜面，谷津に近い部分等）を指摘し，災害例なども紹介する。 〔思〕ハザードマップや地形図より，その地域の危険な場所を読み取り，自分たちの予想について検証している。 （発表，話合い）
4 台地と低地に安全性について考える ○台地は宅地として安全であるか考える。 ○低地は危険かについて検討する。	・竜ヶ崎市の自然堤防の例を挙げて，低地でも安全な場所があることを説明する。
5 住宅開発地の変化 ○住宅開発地の変化を確認しながら，その理由について理解する。	・上水道，道路の整備，堤防や排水設備の整備などにより人々が安全で住みやすいと考えている土地の条件が変化してきていることについても考えさせたい。
6 まとめ ・危険な場所と安全な場所の条件を整理し，人々の努力により安全な地域が増加していることを確認する。	

(4) 授業の分析と考察

ア　知識・技能を習得するため学習活動について

今回は宅地開発に視点を当て，どのような場所で開発が進んでいるのかを考察させた。最初に，新聞広告の地図（略地図）から地図情報を読み取る段階では，生徒は身近な地域であるため，「ここは○○君の家のところだ。」などと話しながら実際の土地の景観をイメージしながら学習していた。さらに地形図を配付して，開発されている場所の地形を読み取らせた後に，駅からの距離，道路，公共施設の位置や地価なども調べさせて，住居地

としての環境を考察させた。そして，小美玉市内で今回取り上げた地域に住宅開発がなされた理由について考えていた。この学習を通して，生徒は人間生活において「住みやすさ」という課題に対しては，単に地形などの問題だけでなく，人間行動の様々な要因も検討しなければならないことを実感していた。住宅地をどこにするかという課題に対して，生徒は班ごとに話合いを行ったが，表２のような理由をあげている。３班を除き，駅から近いなどの人間行動にかかわる理由をあげている。

表２　住宅地を選んだ理由

班名	住宅地を選んだ理由
1	交通が便利。学校・駅に近い
2	家が少ない。駅に近い。市役所に近い
3	土地の標高が高い。
4	駅に近い　千波湖に近い　台地で氾濫がない。
5	水田が少ない　台地　国道が近い
6	駅や学校に近い。近所づきあいがよい。

イ　習得した知識・技能を活用する表現活動について

住宅地の開発という課題追究を通して得られた知識・技能を活用して，生徒自身が住宅を選ぶ学習では，隣接する水戸市の地図を利用した。本来ならば，景観などを通して土地の様子がイメージしやすい小美玉市の地図を用いるべきであるが，ハザードマップなども用いて災害の可能性について言及するので生徒の動揺も考慮してこの選択をした。

生徒は，水戸市については生徒は身近な地域で訪れたこともあり，景観もイメージしやすいことから，習得した知識・技能を活用しながら活発に話合いを行い，住宅候補地を選んでいた。選んだ候補地は，地理情報や人間行動などを十分に考慮した内容になっている。

その後のハザードマップを示して様々な地理条件を考慮しながら災害を予想させる学習では，図１のような結果が得られた。生徒は，自分たちの利便性のみで住宅地は決めるべきではなく，自然災害などの危険性という観点からも検討しなければならないことを実感していた。

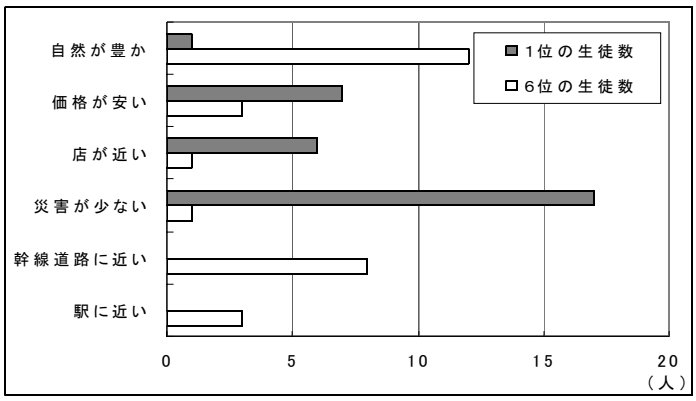


図１　生徒の考える住宅地の条件

（６項目の優先順位　１位，６位のみ抽出）

様々な地図を活用して読図の技能を高め，話合いなどを通して住宅地を選定させる学習は，地理の授業における習得した知識・技能の活用だけでなく，将来経験するであろう実生活における活用にもつながるものと考えられる。

(5) 授業研究の成果と課題

ア　成果

身近な地域や隣接地域を教材としたため，生徒は授業以外の日常生活からも習得した知識・技能を活用することができ，意欲的に授業や学習課題に取り組むことができた。住宅地の選定という将来にわたって必要となる学習課題を設定し，追究したことは，実生活に関連付けた内容になった。

イ　今後の課題

(ｱ) 身近な地域を教材化したことは，生徒の習得した知識・技能を活用するには効果的であった。今後も，身近な地域から課題を見いだし，授業を進めていきたい。

(ｲ) 講義中心の授業になりがちになってしまうので，生徒の作業的な時間を確保し，考える時間を多くする授業の工夫を図りたい。

【授業研究８】　高等学校第３学年現代社会「現代の社会生活と青年」における習得した知識を活用する学習指導の工夫

(1) 研究のねらい

高等学校公民科では,「豊かな学びをはぐくむ授業の創造」の研究主題のもと,習得した知識の活用を具現化するために「現代社会」において問題解決的な学習を実践してきた。本実践においては,「課題追究型のプログラム」と称する三段階の学習過程を取り入れ，主題に迫るものとする。

具体的には,第一に「問題の本質は何か」（課題発見能力）として与えられた課題を分析してその本質に迫り,次に「何をすべきか」として課題を解決するために思考し（問題解決能力），最後にこれらの習得した知識を活用して,「自分だったらどうするのか」（当事者観意識：「観」としたのは当事者になったつもりでものを見たり,考えたり,そして行動することを意味する）という学習である。これらの活動を通して,習得した知識の活用を図る学習指導の在り方を究明したい。

(2) ねらいに迫るための具体的な手立て

ア　知識を習得するための学習活動

生徒は１班構成４～５人程度とし，年間指導計画に位置付けられたテーマごとに，発表者・進行係をそれぞれ２～３人を割り当てる。「発表者」は，事前に図書室やコンピューター室で調べ学習を行い，調べたことを「発表用シート」にまとめておく（指導者と事前に打ち合わせをしておく）。その際,「司会・進行係」は,進行マニュアル（教師作成）の「授業の流れ」に沿って,話合いを進行させ，教師は,話合いが停滞しないように助言する。調べたことについてグループごとに意見交換したり考察したりして知識の習得を図り，その結果を発表することで,クラス全体で学習内容について「共有化」し,さらなる知識の習得を図る。

イ　習得した知識を活用する表現活動

生徒には,テーマごとに「自己確認シート」を提出させ，発表を通して習得した知識を活用して，一人一人の考えを文字で表現させる。この学習において，生徒は「自分だったらどうするのか」（当事者観意識）という視点で,「自己評価」を図る。最終的には，教師のコメント加えて返却することで，さらなる追究活動を行いたい。

(3) 授業の実践

ア　単元名　　現代の社会生活と青年

イ　単元の目標

○　「現代の社会生活と青年」の生き方に対する関心を高め，それを意欲的に追究し,現代社会に生きる青年として自己の生き方について考えようとする態度を養う。

【関心・意欲・態度】

○　現代の社会生活の諸事象から課題を見いだし，生涯における青年期の意義と自己形成の課題について多面的・多角的に考察し,現代社会における青年の生き方について社会の変化や様々な立場,考え方を踏まえ公正に判断させる。　【思考・判断】

○　現代の社会生活の関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，学習に役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに,生涯における青年期の意義と自己形成の課題,

現代社会における青年の生き方を追究し，考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現させる。【技能・表現】

○　現代社会の特質と社会生活の変化，青年期，社会参加などについて理解し，知識を身に付けさせる。【知識・理解】

ウ　学習計画及び評価規準（４時間取り扱い）

〔関〕・・・関心・意欲・態度　〔思〕・・・思考・判断　〔技〕・・・技能・表現　〔知〕・・・知識・理解

時	主な学習活動	活用の視点	評価規準（評価方法）
1 ・ 2	1　科学的思考とは？ 2　哲学的思考とは？ 3　科学的思考と哲学的思考の違いを認識している。 4　科学技術の光と影について，例をあげて考察してみる。 5　人間にとって，科学とはどうあるべきか考察できる。	習得した知識 （思考，発表）	〔知〕西欧の近代科学は，自然に対してどのような見方や態度をとってきたのか理解している。（発表） 〔技〕先哲の思想を，きちんと説明している。（自己確認シート，発表） 〔思〕科学技術の影について認識できて，人間と科学技術のあり方について考察している。 （自己確認シート，発表）
3	1　人間の尊厳について，先哲はどのように考えていたのか，理解する。 2　人格の尊厳，人間としての価値は，いかなるところにあるのか，考察してみる。	習得した知識 （話合い，発表）	〔関〕人間の尊厳，人間としての価値は，いかなるところにあるのか関心をもとうとしている。（観察） 〔知〕カントの「道徳原則」について理解している。 （自己確認シート，発表）
4	1　社会に生きる人間にとって，正義とはいかなる意味をもっているのか考察してみる。 2　「自由」であることの意味を理解できる。	習得した知識 （話合い，記述）	〔思〕サルトルの思想を通して，「自由とは何か」について考察している。　（観察，自己確認シート）

エ　本時の指導

(ｱ) 本時の目標

○　これまで学習した哲学的思考を踏まえ，科学的思考との違いを認識できる。また，科学技術の光と影を対比し，影の部分とどうつきあっていけばよいのかを考察させる。

(ｲ) 準備・資料

○　「自己確認シート」「発表用シート」（それぞれ「発表者」が作成したものをコピーして生徒全員に配布）

(ｳ) 展開（２時間扱い）

学習活動・内容	活用の視点	指導上の留意点及び評価
1　司会者は，発表者及び本時の課題を紹介する。 2　発表者による課題の発表 ・科学的思考とは？	・発表者の習得した知識 （科学的思考，哲学的思考，比較検討）	・生徒が授業に参加する準備ができているかどうか確認させる。 ・発表者の理解度を見るために，教師は問答法を用いて，質問する（科学的思考と哲学

・哲学的思考とは？ ・科学的思考と哲学的思考の違い。 ・発表者は科学技術の光と影 （科学技術の影の具体例，科学技術のあるべき姿等） 3　人間にとって科学はどうあるべきか提案する。	・発表者の習得した知識 （科学技術について，考察）	的思考の使い分けが大切であることを認識させる）。 ・科学技術のあるべき姿について，身近な点に目を向かせる。
4　発表者に対する質疑応答 ・発表内容に対する不明な点について，聞き手は質問する。 ・意見交換したことは， 5　「論点」と「提案」に対して各自でコメントを記入する。		・基本的事項について，聞き手の生徒に質問して，クラス全体の理解をうながす。 ・質問者と発表者の橋渡しをし，質問者と発表者の間にコミュニケーション・ギャップが生じないように留意する（コミュニケーション・ギャップが生じた場合は多少時間がかかっても，解決するようにしておく）。
6　グループ内での情報の共有化 グループ内で，「論点」と「提案」について意見交換し，その内容を「自己確認シート」に記入する。	・聞き手の習得した知識の活用（発表，記入）	・生徒が，グループ内で自分の意見を述べて，意見交換した内容を記入しているか，机間指導をしながら確認する。
7　グループの代表者は話合いの結果を発表し，聞き手はその内容を「自己確認シート」に記入する。 ・各グループで話し合われた内容を全体に紹介することで，全体の「共有化」を図る。	・聞き手の習得した知識の活用（発表，記入）	・他のグループの意見を，聞きながら記入しているかどうか確認する。よく聞き取れない場合は，司会者に確認し，必要に応じて繰り返させる。
8　教師による本時のまとめ		・発表者の提案に基づいて，生徒から出た意見を踏まえてまとめる。
9　本時の振り返り ・「自己確認シート」の空欄を埋めながら，本時を振り返る。	・授業を通して習得した知識の活用（記入）	・「自己確認シート」は授業終了後に提出するように指示する。 ・授業に参加する前と後の考え方の変化について記入するよう助言する。

○　授業における生徒の役割とその内容

発表者：調べ学習の時間に調べた内容を，他の生徒に正確に伝え，質問や意見に的確に対応できる。

司会者：教師作成の進行マニュアルの授業の流れに沿って，話合いを進めることができ，発表者と質問者の意見調整ができる。クラス全体での，情報の共有化を確認しながら進行できる。

聞き手：グループ内で意見交換を行ったり，「自己確認シート」を記入する。

(4) 授業の分析と考察

ア　知識を習得するための学習活動について

今回の課題追究型プログラムによる授業は，年間計画に位置付けられて，１年間を通して実践している。そのため，すべての生徒は一度は発表者を経験することになる。すべての生徒は発表者として自分の担当することになる単元の課題について，図書室やコンピューター室を使って，調べ学習を行った。本実践においては，それぞれが担当する単元の課題である「科学的思考」,「科学技術の光と影」,「科学技術のあるべき姿」について資料を選択し，発表用資料を作成していた。

発表者は,発表用資料を説明しながら質問者と質疑応答を繰り返し，調べた内容をある程度クラス全体に伝えていた。この時，発表者は想定外の質問に対して返答に詰まる場面もみられたが，教師のアドバイスで何とか修正することはできた。その後のグループ活動においては，聞き手は論点と提案を自己確認シートに記入し，聞き取った情報を自分なりに整理して知識を習得していった。

イ　習得した知識を活用する表現活動について

課題をグループ内で話し合うことで，生徒一人一人は習得した知識を活用して自分の考えを発表という形で表現し，グループ内の考えをまとめることができた。生徒は意見交換により自分の考えを繰り返し発言するが，この活動は習得した知識の活用を意味し，発言の度に知識を習得し活用することとなる。

そして,グループごとにまとめられた課題を発表し合い,クラスで共有化する活動では,生徒は自分たちの考えと他を比較検討し，補強したり，修正を加えたりしていた。このことで，生徒はさらなる知識の習得を図ったことになる。まとめの場面では，教師によるまとめが行われることでおおよその方向性が示され，最終的に生徒は習得した知識を活用して，自己確認シートを作成していた。ここにおいて，生徒は，課題の共有化の段階と二段階の活用を行ったといえる。資料１は，自己確認シートの記入例であるが，自己に対する評価欄では，下線部よりきちんと根拠を述べて反対という判断を行い，今後の課題を記入しており，研究の冒頭に提示した当事者間意識がはぐくまれており，まさに習得した知識の活用が行われていることが検証された。

(5) 成果と課題

ア　成果

現代社会という科目の性格を考慮して，司会者や発表者などを決め，極力生徒が中心となって授業を行い，教師はアドバイザーとして発言を最小限にとどめたことは生徒の主体的な運営を行う上で非常に効果的であった。その結果，すべての学習において生徒は，積極的に活動し，結果的に知識の習得においてもその活用においても，十分な結果を示すことができたと考える。

イ　今後の課題

今回実施した課題追究プログラムによる授業は，以前から実践してきたものである。そのため,教科書の全単元を年間指導計画に位置付け,評価規準表を作成して実施してきた。しかし，現実問題として，同一講座を複数の教員が担当した場合，指導方法や評価方法の共有化を図ることは非常な困難が伴う。今後はこれらの点においてもう少し，簡潔に取り組むことのできる授業方法の確立に努めたい。

論点に対する提案	問題点に対して、具体的な政策を提案してみる。【発表者】

影の部分を知り、私たち一人一人がどのように向き合うべきかを考える。

2 論点と論点に対する提案について、あなたの考えをまとめてみよう。【各自】

光と影の両方を知ることが大切だと思う。

すべての物事には光と影があり、それが人間や生命などに関わってくるから

3 論点の共有化【各自】

論点やその提案に対して、どう考えるか、グループで話し合い、まとめて、発表してみる。	他のグループの意見をまとめてみる。
光と影の両方を知ることだけでもこの問題に向き合っていることになると思う。物事すべてに光と影があり光は決して悪いことではないと思うので、「光は光のままで良い。」(影を知った上で)(進歩してもいい。)	・今は光に見えても将来的には影になりそう。 ・不必要な科学進歩はどうかと。 ・良くても悪くても続けても続けなくても変わらない。(記判断)自分たちがまとめる ・影を無くすことは難しいが、影をなくすための科学技術と生きていくことでも大切だと思う。 ・個人レベルでできることはあるのか。 ・人間に必要な科学技術を進める(便利ではなく。) ・影の部分を見ないようにしかない。しかし科学技術は進歩してもいい ・影を知ってもどうにもできない。→記判断。

4 授業に対する評価	今回の授業を振り返って、発表者や司会者に対して、何かコメントがあれば書いて下さい。【各自】

進行がとてもスムーズでした。

難しい問題だったがしっかりまとめてあったと思いました。

5 自己に対する評価	授業に参加する前と後では、あなた自身、変化がみられるか。変化がみられないとすれば、それはなぜか?あるいは、変化がみられるとしたら、どのように変化したか、書いてみて下さい。【各自】

最初はクローン技術・人工授精・体外受精など否定的に考えていた。

すべて、良い部分と悪い部分があるのはわかるが、悪い部分を知った上でも良い部分は変わらない。

ただ今でも体外受精・人工授精は私は賛成できないが、それをしたい人の立場になれば、賛成すると思う。しっかり影を知った上で科学技術を光のために使うなら、今の私は反対しない。

しかし、これ以上に科学技術は発達しない方が良いと思った。これ以上発達してしまえば、誰から見ても、光より影の方が大きくなってしまうのではないだろうか。

難しい価値判断ですね!

検 裏に回

組	番	氏名	自分自身に対して、総合的に評価してみて下さい。	4

３　研究のまとめ

社会・地理歴史・公民科では，「児童生徒の豊かな学びをはぐくむ授業の創造」という研究主題のもと，習得した知識・技能を活用する授業の工夫をめざして，実践的な研究に取り組んできた。この２年間の研究の取組から本研究実践についての主な成果と課題を以下に述べる。

(1) 成果

ア　知識・技能を習得するための学習活動

この学習活動における手立てについて以下に示した。

○導入段階での既習事項の確認と整理

・導入段階においては教師の適切な助言により，学習において必要となる既習事項を確認し，体系付けることで学習問題とし，意欲的な調べ学習につながった。

○調べ学習における適切な資料・情報の選択

・調べ学習においては，学習内容に必要な資料や情報を問題意識をもって児童生徒に収集させるので，一人一人が明確な判断基準をはぐくむことができた。

○収集した資料・情報を多面的・多角的に検討する話合い活動

・収集した資料や情報に対して根拠に基づいた話合いを行うことで，児童生徒個人で考えたことが，客観性を伴った思考活動となり習得した知識へと高められた。

○地図活用における技能の習得

・地図記号など習得した知識や景観などの視覚的な情報に基づいて，地形図などを読み取り，必要となる情報を引き出す技能の習得ができた。

イ　習得した知識・技能を活用する表現活動

知識・技能の活用については，基本的な考え方でも述べたように，将来の実社会や実生活においての活用と，一連の授業における活用場面が考えられるとした。本実践においては，習得した知識・技能を様々な授業場面で適切に聞き手に分かりやすく表現する学習活動を行った。

○口頭発表による表現活動

・パネルディスカッション・ディベート・発表などの方法において，児童生徒は発表資料を用意して，相手に分かりやすく説明することができた。学習内容を明確にとらえることができると，分かりやすい提示資料が準備され，ねらいに迫る話合いや発表となり，考えを深めることができた。

○ＩＣＴ機器活用における技能の習得

・習得した知識の中からさらに伝えたい内容を選択してプレゼンテーションを作成し，ＩＣＴ機器を活用して表現することができた。

(2) 課題

２年間の研究成果を踏まえて，今後とも，児童生徒一人一人が，これからの社会を主体的，創造的に生きていけるような思考力，判断力，表現力を高める社会科学習指導の研究を進めていきたいと考える。

関係者一覧

1　研究協力員

土浦市立下高津小学校	寺内　明
常総市立絹西小学校	松田　隆男
神栖市立波崎第一中学校	細川　嘉彦
北茨城市立関本中学校	川和　雅人
県立中央高等学校	井坂　孝
県立水戸第三高等学校	井上　宏孝
県立緑岡高等学校	中村　光
県立土浦湖北高等学校	大信　隆

2　茨城県教育研修センター

所長		中村　一夫
教科教育課	課長	小沼　光一
教科教育課	課長	武井　秀一（平成19年度）
同	指導主事	佐藤　誠
同	指導主事	高橋　長男
教職教育課	指導主事	奥谷　克二（平成19年度）